
平成 29 年度

県政世論調査
(概要版)

香川県

目次

第1章 調査の概要	1
1. 調査目的.....	1
2. 調査項目.....	1
3. 調査設計.....	1
4. 回収状況.....	1
5. サンプル設計.....	1
6. 集計・分析方法.....	3
7. 報告書の見方.....	3
第2章 調査回答者の属性	5
1. 性別.....	5
2. 年齢.....	6
3. 職業.....	7
4. 圏域.....	8
5. 居住年数.....	9
第3章 調査の集計結果	11
1. 交通マナーについて.....	11
2. 少子化対策について.....	18
3. 障害福祉について.....	43
4. 選挙啓発について.....	57
5. 県政の重要度と満足度について.....	66

<第1章 調査の概要>

第1章 調査の概要

1. 調査目的

県政の諸問題について、県民の意見や要望等を把握し、今後の施策立案に際しての基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査項目

- (1) 交通マナーについて
- (2) 少子化対策について
- (3) 障害福祉について
- (4) 選挙啓発について
- (5) 県政の重要度と満足度について

3. 調査設計

- (1) 調査地域 香川県全域
- (2) 調査対象 満18歳以上の県民
- (3) 標本数 3,000
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法
- (6) 調査時期 平成29年5月10日～6月1日

4. 回収状況

- (1) 標本数 3,000
- (2) 有効回収数 1,722 (57.4%)

5. サンプル設計

- (1) 母集団 香川県内の市町に居住する満18歳以上の県民
- (2) 標本数 3,000
- (3) 地点数 150地点 (市部：126地点、町部：24地点)
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法

【 層 化 】

県内の市町（8市9町）を次のように5圏域に分類した。

圏域名	構成市町
1 高松圏域	高松市・三木町・直島町・綾川町
2 東讃圏域	さぬき市・東かがわ市
3 小豆圏域	土庄町・小豆島町
4 中讃圏域	丸亀市・坂出市・善通寺市・宇多津町・琴平町・多度津町・まんのう町
5 西讃圏域	観音寺市・三豊市

さらに、各圏域内を市町の規模によって、

①高松市 ②高松市以外の市 ③町 に分類して、それぞれを層とした。

【 標本数の配分 】

各層における母集団数（平成29年3月2日現在の選挙人名簿登録者数）の大きさにより、3,000の標本数を比例配分した。

【 抽 出 】

①第1次抽出単位となる調査地点として、平成29年3月2日現在の投票区を使用した。

②調査地点数については、1調査地点あたりの標本数が20前後になるように、各層に割り当てられた標本数から算出して決定した。

③調査地点の抽出は、調査地点数が2地点以上割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における選挙人名簿登録者数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$

を算出し、等間隔抽出法により該当番目が含まれる投票区を抽出した。

④抽出に際しての各層内における市町の配列順序は、総務省設定の市町村コードに従った。

⑤調査地点における対象者の抽出は、調査地点（投票区）内から選挙人名簿によって等間隔抽出法で抽出した。

⑥以上の結果、圏域別・市町規模別における標本数・調査地点数は次のとおりである。

【 圏域別・市町規模別 標本数および調査地点数 】 上段:母集団数 下段:標本数、()内は調査地点数

圏域 \ 市町別	高松市	高松市以外の市	町	計
1 高松圏域	354,046 1,277 (64)		47,453 171 (9)	401,499 1,448 (73)
2 東讃圏域		71,141 257 (13)		71,141 257 (13)
3 小豆圏域			26,107 94 (4)	26,107 94 (4)
4 中讃圏域		165,842 598 (30)	58,466 210 (11)	224,288 808 (41)
5 西讃圏域		108,986 393 (19)		108,986 393 (19)

6. 集計・分析方法

集計・分析にあたり、回答者の年齢階層の偏りを補正し、年齢別の集計ウェイトを乗じて標本数を規正（ウェイトバック集計）した。ウェイトバック集計した値は、この規正した標本数を基に回答者の割合（百分比%）等を算出している。なお、規正した標本数は、乗算結果の小数点以下第1位を四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しない場合がある。

年齢区分	推定母集団		有効回答数		年齢ウェイト A/B
	実数(人)	構成比(%) A	実数(人)	構成比(%) B	
18～19 歳	18,055	2.2	25	1.5	1.530(1.467)
20～29 歳	77,608	9.7	117	6.9	1.405(1.406)
30～39 歳	106,621	13.3	195	11.5	1.159(1.157)
40～49 歳	133,823	16.7	262	15.4	1.082(1.084)
50～59 歳	111,224	13.8	284	16.7	0.830(0.826)
60～69 歳	152,592	19.0	379	22.3	0.853(0.852)
70 歳以上	203,336	25.3	440	25.9	0.979(0.977)
合計	803,259	100.0	1,702	100.0	-

※1) 推定母集団は平成 28 年 10 月時点

※2) 構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計と内訳の計が一致しない場合がある。

※3) 年齢ウェイトは小数点以下を含んだ各構成比から算出しており、小数点以下第 2 位を四捨五入した各構成比から算出したカッコ内の数値とは一致しない。

7. 報告書の見方

- (1) 回答の比率は、その設問の回答者数を基数として算出し、少数第 2 位を四捨五入した。
このために、百分比の合計が 100.0%にならないことがある。
- (2) 複数回答の設問の場合、回答は選択肢の有効回答数に対し、それぞれの割合を示している。
このために、その比率の合計が 100.0%を超える場合がある。
- (3) 図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。また、設問で回答がなかった選択肢について、図中の比率表記（0.0%）を省略している。
- (4) 本文、図表、集計表に用いた符号等の意味は次のとおりである。
N：質問に対する回答者数で、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数

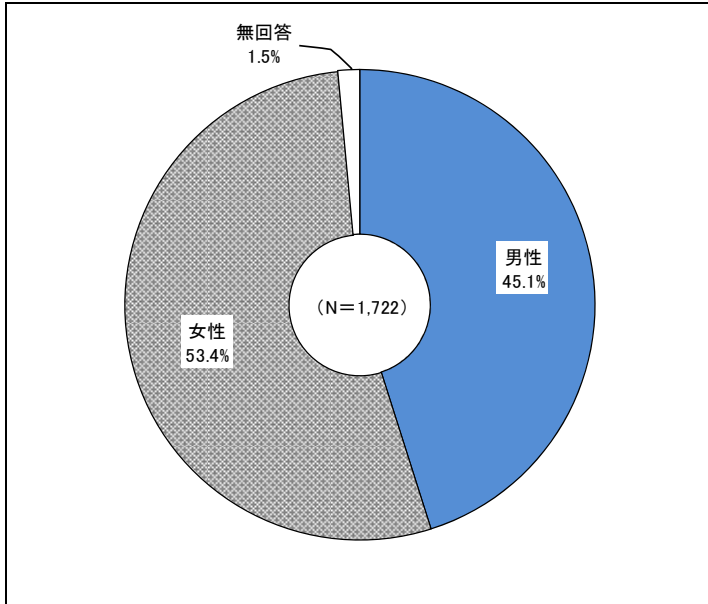
<第2章 調査回答者の属性>

第2章 調査回答者の属性

1. 性別

性別について、「男性」(45.1%)、「女性」(53.4%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「男性」(45.3%)、「女性」(53.2%)となっている。



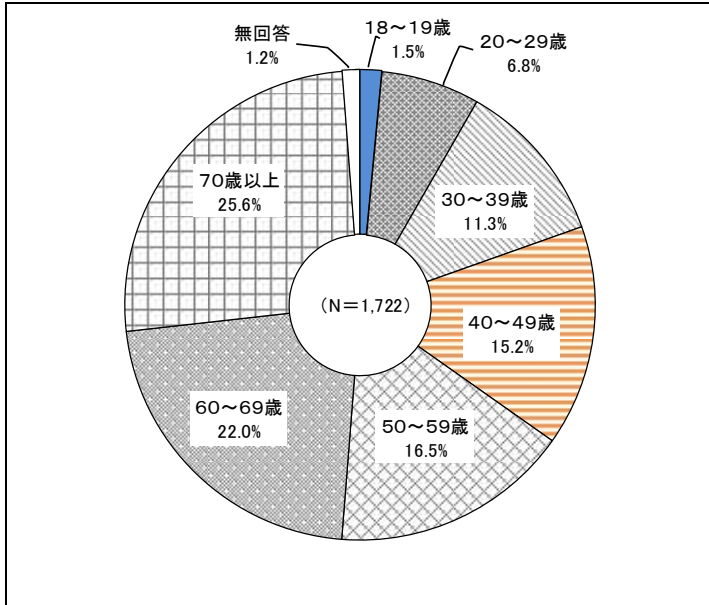
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
男性	777 (779)	45.1 (45.3)
女性	919 (916)	53.4 (53.2)
(無回答)	26 (26)	1.5 (1.5)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

2. 年齢

年齢について、「70歳以上」(25.6%)が最も高く、次いで「60～69歳」(22.0%)、「50～59歳」(16.5%)、「40～49歳」(15.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「70歳以上」(25.0%)が最も高く、次いで「60～69歳」(18.8%)、「40～49歳」(16.5%)、「50～59歳」(13.7%)などとなっている。



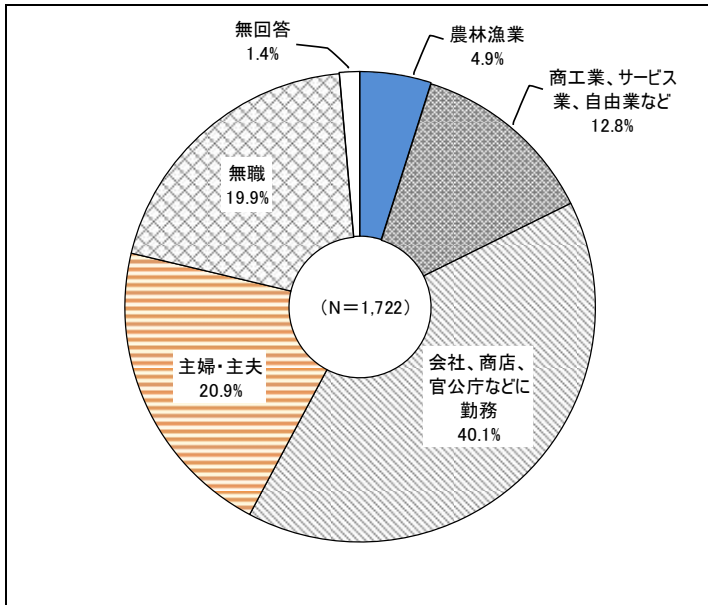
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
18～19歳	25 (38)	1.5 (2.2)
20～29歳	117 (164)	6.8 (9.5)
30～39歳	195 (226)	11.3 (13.1)
40～49歳	262 (284)	15.2 (16.5)
50～59歳	284 (236)	16.5 (13.7)
60～69歳	379 (323)	22.0 (18.8)
70歳以上	440 (431)	25.6 (25.0)
(無回答)	20 (20)	1.2 (1.2)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

3. 職業

職業について、「会社、商店、官公庁などに勤めている」(40.1%)が最も高く、次いで「主婦・主夫」(20.9%)、「無職」(19.9%)、「商工業、サービス業、自由業などを営んでいる」(12.8%)、「農林漁業」(4.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「会社、商店、官公庁などに勤めている」(41.0%)が最も高く、次いで「無職」(20.0%)、「主婦・主夫」(19.9%)、「商工業、サービス業、自由業などを営んでいる」(13.0%)、「農林漁業」(4.6%)となっている。



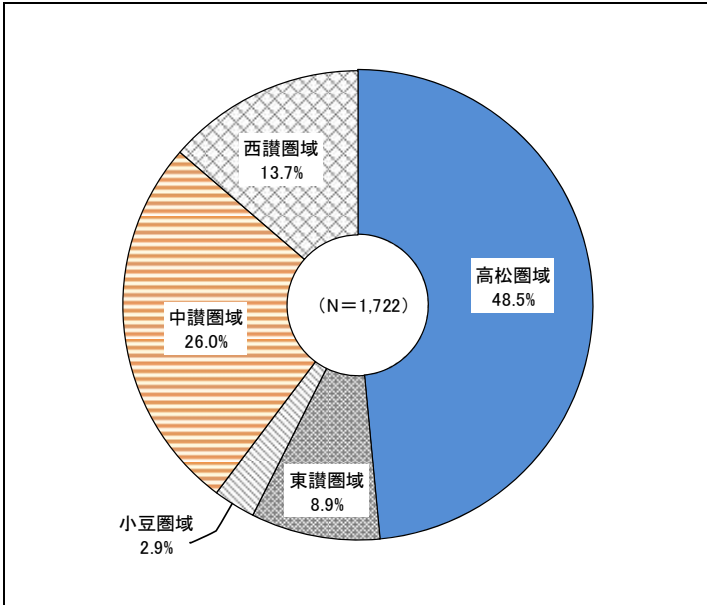
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
農林漁業	85 (80)	4.9 (4.6)
商工業、サービス業、 自由業など	221 (225)	12.8 (13.0)
会社、商店、官公庁 などに勤務	690 (706)	40.1 (41.0)
主婦・主夫	360 (343)	20.9 (19.9)
無職	342 (344)	19.9 (20.0)
(無回答)	24 (24)	1.4 (1.4)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

4. 圏域

圏域について、「高松圏域」(48.5%)が最も高く、次いで「中讃圏域」(26.0%)、「西讃圏域」(13.7%)、「東讃圏域」(8.9%)、「小豆圏域」(2.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「高松圏域」(48.9%)が最も高く、次いで「中讃圏域」(26.2%)、「西讃圏域」(13.5%)、「東讃圏域」(8.6%)、「小豆圏域」(2.7%)となっている。



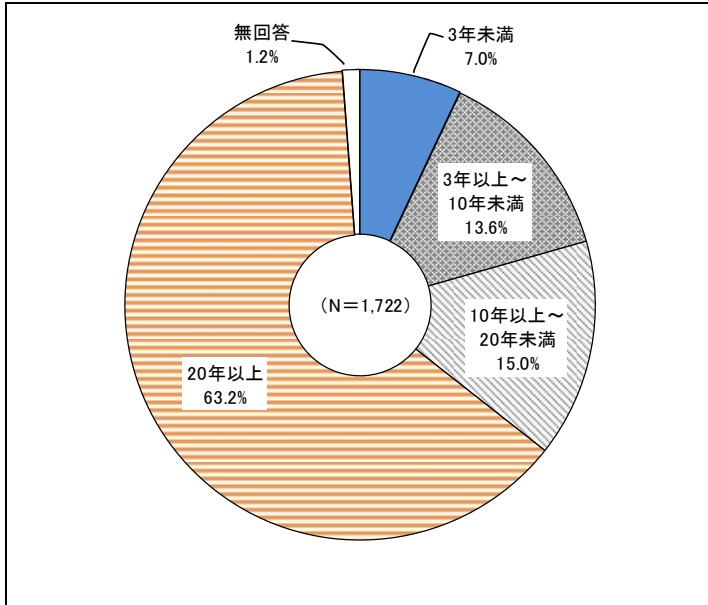
項目	回答数 (人)	構成比 (%)
高松圏域	835 (842)	48.5 (48.9)
東讃圏域	153 (149)	8.9 (8.6)
小豆圏域	50 (47)	2.9 (2.7)
中讃圏域	448 (452)	26.0 (26.2)
西讃圏域	236 (233)	13.7 (13.5)
(無回答)	0 (0)	0.0 (0.0)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

5. 居住年数

居住年数について、「20年以上」(63.2%)が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」(15.0%)、「3年以上～10年未満」(13.6%)、「3年未満」(7.0%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「20年以上」(60.3%)が最も高く、次いで「10年以上～20年未満」(15.7%)、「3年以上～10年未満」(14.7%)、「3年未満」(8.1%)となっている。



項目	回答数 (人)	構成比 (%)
3年未満	121 (139)	7.0 (8.1)
3年以上～10年未満	234 (253)	13.6 (14.7)
10年以上～20年未満	258 (271)	15.0 (15.7)
20年以上	1,088 (1,038)	63.2 (60.3)
(無回答)	21 (21)	1.2 (1.2)
計	1,722	100.0

※ () 内の数字はウェイトバックした値

<第3章 調査の集計結果>

第3章 調査の集計結果

1. 交通マナーについて

(1) 香川県を通行する車などの交通マナーについて

問1 香川県を通行する車などの交通マナーについてどう思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

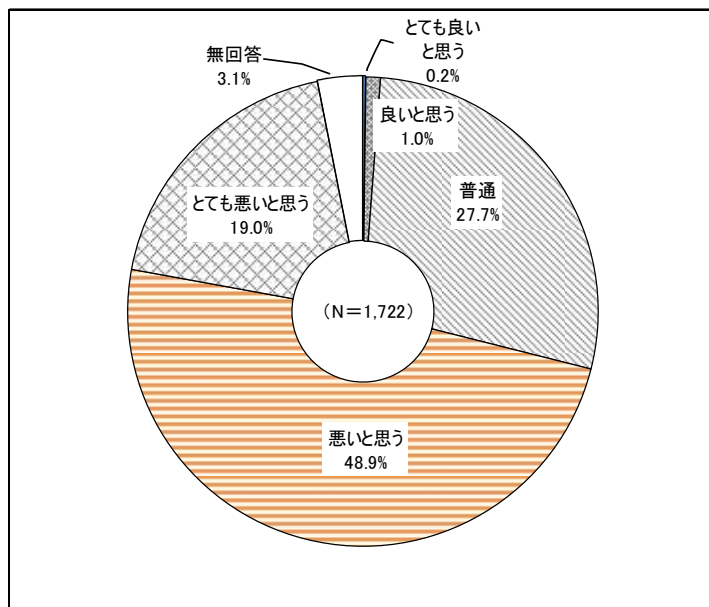
【回答者数=1,722】

1 とても良いと思う	0.2% (0.2%)
2 良いと思う	1.0% (1.0%)
3 普通	27.7% (27.1%)
4 悪いと思う	48.9% (48.9%)
5 とても悪いと思う	19.0% (19.7%)
(無回答)	3.1% (3.1%)

香川県を通行する車などの交通マナーについて、「悪いと思う」(48.9%)が最も高く、次いで「普通」(27.7%)、「とても悪いと思う」(19.0%)、「良いと思う」(1.0%)、「とても良いと思う」(0.2%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「悪いと思う」(48.9%)が最も高く、次いで「普通」(27.1%)、「とても悪いと思う」(19.7%)、「良いと思う」(1.0%)、「とても良いと思う」(0.2%)となっている。

図表 1-(1)-1 香川県を通行する車などの交通マナーについて



(2)信号機のない横断歩道にて一時停止しない車について

問2 信号機のない交差点で、歩行者が横断歩道を渡ろうとしている場合には、法律では、車などは、一時停止しなければなりません。香川県では、信号機のない横断歩道で歩行者が渡ろうとしているのに一時停止しない車が多いとの意見があります。あなたはどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

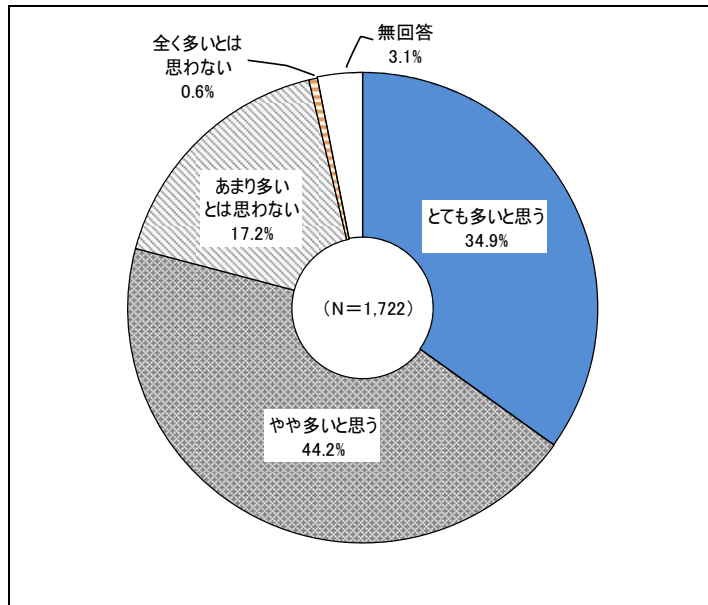
【回答者数=1,722】

1 とても多いと思う	34.9% (35.6%)
2 やや多いと思う	44.2% (44.1%)
3 あまり多いとは思わない	17.2% (16.6%)
4 全く多いとは思わない	0.6% (0.6%)
(無回答)	3.1% (3.1%)

信号機のない横断歩道にて一時停止しない車について、「やや多いと思う」(44.2%)が最も高く、次いで「とても多いと思う」(34.9%)、「あまり多いとは思わない」(17.2%)、「全く多いとは思わない」(0.6%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「やや多いと思う」(44.1%)が最も高く、次いで「とても多いと思う」(35.6%)、「あまり多いとは思わない」(16.6%)、「全く多いとは思わない」(0.6%)となっている。

図表 1-(2)-1 信号機のない横断歩道にて一時停止しない車について



(3) 方向指示器をぎりぎりまで、または、全く出さない車について

問3 車などを運転中に進路変更や右左折等をする場合、法律では、方向指示器等により合図することとされていますが、香川県では、車線変更や右左折等する時、方向指示器等をぎりぎりまで出さない、または、全く出さない車が多いという意見があります。あなたはどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

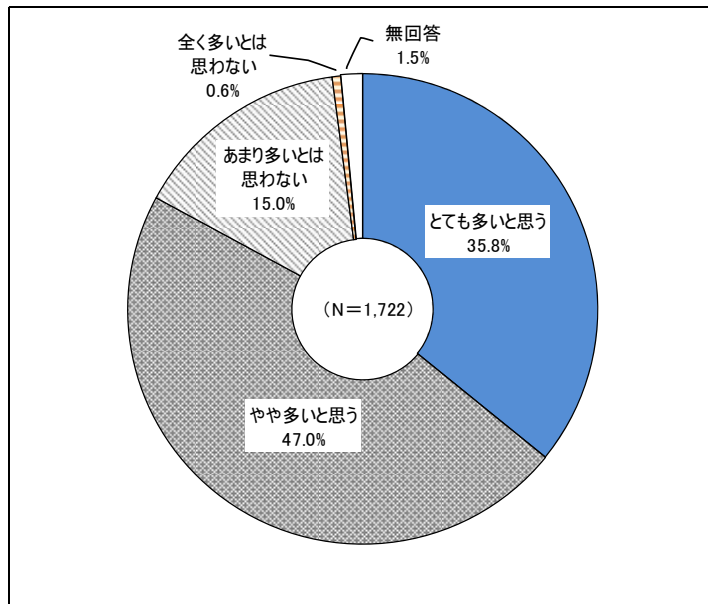
【回答者数=1,722】

1 とても多いと思う	35.8% (36.6%)
2 やや多いと思う	47.0% (46.7%)
3 あまり多いとは思わない	15.0% (14.6%)
4 全く多いとは思わない	0.6% (0.6%)
(無回答)	1.5% (1.5%)

方向指示器をぎりぎりまで、または、全く出さない車について、「やや多いと思う」(47.0%)が最も高く、次いで「とても多いと思う」(35.8%)、「あまり多いとは思わない」(15.0%)、「全く多いとは思わない」(0.6%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「やや多いと思う」(46.7%)が最も高く、次いで「とても多いと思う」(36.6%)、「あまり多いとは思わない」(14.6%)、「全く多いとは思わない」(0.6%)となっている。

図表 1-(3)-1 方向指示器をぎりぎりまで、または、全く出さない車について



(4)「ながらスマホ」で走行するドライバーについて

問4 携帯電話・スマートフォンを操作しながらの車などの運転（走行）、いわゆる「ながらスマホ」は、法律で禁止されているにもかかわらず、香川県では、「ながらスマホ」で走行するドライバーが多いという意見があります。あなたはどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

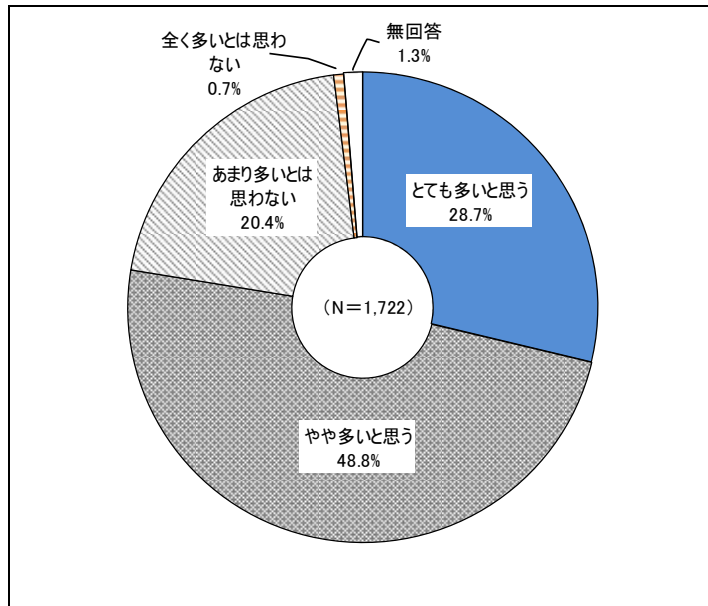
【回答者数=1,722】

1 とても多いと思う	28.7% (28.7%)
2 やや多いと思う	48.8% (49.2%)
3 あまり多いとは思わない	20.4% (20.1%)
4 全く多いとは思わない	0.7% (0.7%)
(無回答)	1.3% (1.3%)

「ながらスマホ」で走行するドライバーについて、「やや多いと思う」(48.8%)が最も高く、次いで「とても多いと思う」(28.7%)、「あまり多いとは思わない」(20.4%)、「全く多いとは思わない」(0.7%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「やや多いと思う」(49.2%)が最も高く、次いで「とても多いと思う」(28.7%)、「あまり多いとは思わない」(20.1%)、「全く多いとは思わない」(0.7%)となっている。

図表 1-(4)-1 「ながらスマホ」で走行するドライバーについて



(5) 運転中に、後方車両にあおられたり、無理な割り込みをされるかについて

問5 県内の道路で車などを運転中に、後方車両にあおられたり、無理な割り込みをされることがありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

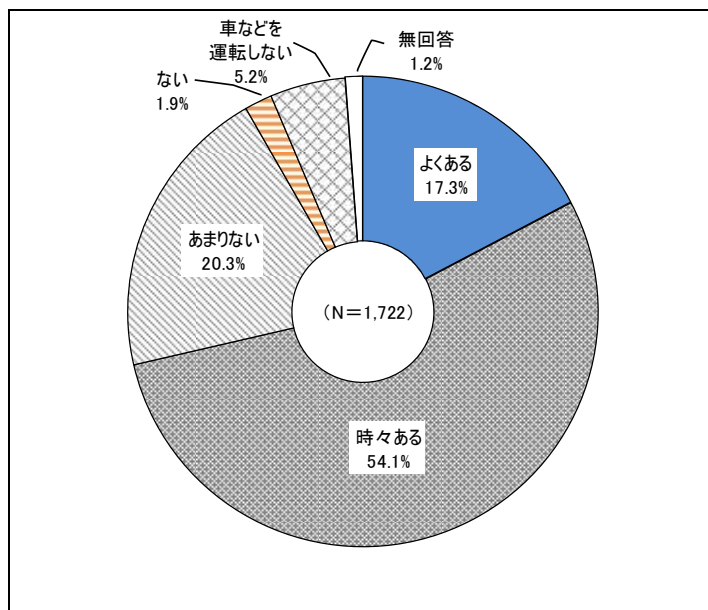
【回答者数=1,722】

1 よくある	17.3% (17.7%)
2 時々ある	54.1% (53.8%)
3 あまりない	20.3% (20.1%)
4 ない	1.9% (1.9%)
5 車などを運転しない	5.2% (5.4%)
(無回答)	1.2% (1.1%)

運転中に、後方車両にあおられたり、無理な割り込みをされるかについて、「時々ある」(54.1%)が最も高く、次いで「あまりない」(20.3%)、「よくある」(17.3%)、「車などを運転しない」(5.2%)、「ない」(1.9%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「時々ある」(53.8%)が最も高く、次いで「あまりない」(20.1%)、「よくある」(17.7%)、「車などを運転しない」(5.4%)、「ない」(1.9%)となっている。

図表 1-(5)-1 運転中に、後方車両にあおられたり、無理な割り込みをされるかについて



(6) 自転車損害賠償責任保険に加入しているかについて

問6 自転車損害賠償責任保険についておたずねします。

他県では、自転車事故の加害者になった場合、高額な賠償金を課せられるケースが生じています。あなたは、自転車損害賠償責任保険に加入していますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

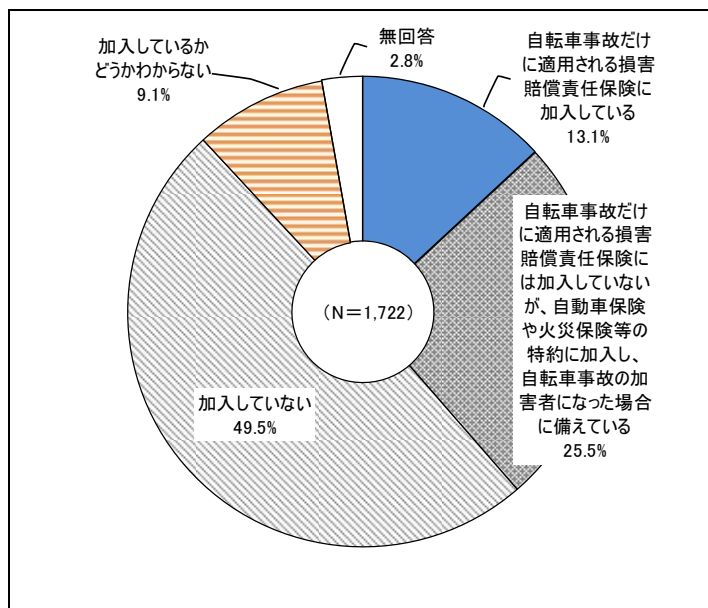
【回答者数=1,722】

- | | | |
|---|--|------------------------------|
| 1 | 自転車事故だけに適用される損害賠償責任保険に加入している | 13.1% (13.7%) |
| 2 | 自転車事故だけに適用される損害賠償責任保険には加入していないが、自動車保険や火災保険等の特約に加入し、自転車事故の加害者になった場合に備えている | 25.5% (25.2%) |
| 3 | 加入していない ⇒付問1にお進みください | 49.5% (48.4%) |
| 4 | 加入しているかどうかわからない
(無回答) | 9.1% (9.9%)
2.8% (2.8%) |

自転車損害賠償責任保険に加入しているかについて、「加入していない」(49.5%)が最も高く、次いで「自転車事故だけに適用される損害賠償責任保険には加入していないが、自動車保険や火災保険等の特約に加入し、自転車事故の加害者になった場合に備えている」(25.5%)、「自転車事故だけに適用される損害賠償責任保険に加入している」(13.1%)、「加入しているかどうかわからない」(9.1%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「加入していない」(48.4%)が最も高く、次いで「自転車事故だけに適用される損害賠償責任保険には加入していないが、自動車保険や火災保険等の特約に加入し、自転車事故の加害者になった場合に備えている」(25.2%)、「自転車事故だけに適用される損害賠償責任保険に加入している」(13.7%)、「加入しているかどうかわからない」(9.9%)となっている。

図表 1-(6)-1 自転車損害賠償責任保険に加入しているかについて



(7) 自転車損害賠償責任保険に加入していない理由について

【問6で「3」と答えた方にお聞きします。】

付問1 どのような理由により自転車損害賠償責任保険に加入していないのですか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=853 (834)】※回答数の多い順に並び替え

1	自転車に乗らないから	70.0% (70.2%)
2	自転車損害賠償責任保険があることを知らないから	16.3% (16.5%)
3	自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることは考えられないから	15.2% (15.0%)
4	自転車損害賠償責任保険は知っているが、自転車で事故を起こしても、保険で補償するほど必要はないと思うから	7.5% (7.3%)
5	保険料が高いから	5.7% (5.9%)
	(無回答)	0.8% (0.8%)

自転車損害賠償責任保険に加入していない理由について、「自転車に乗らないから」(70.0%)が最も高く、次いで「自転車損害賠償責任保険があることを知らないから」(16.3%)、「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることは考えられないから」(15.2%)、「自転車損害賠償責任保険は知っているが、自転車で事故を起こしても、保険で補償するほど必要はないと思うから」(7.5%)、「保険料が高いから」(5.7%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自転車に乗らないから」(70.2%)が最も高く、次いで「自転車損害賠償責任保険があることを知らないから」(16.5%)、「自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることは考えられないから」(15.0%)、「自転車損害賠償責任保険は知っているが、自転車で事故を起こしても、保険で補償するほど必要はないと思うから」(7.3%)、「保険料が高いから」(5.9%)となっている。

図表 1-(7)-1 自転車損害賠償責任保険に加入していない理由について

		回答数
全体	100.0	853 人
(1) 自転車に乗らないから	70.0	597 人
(2) 自転車損害賠償責任保険があることを知らないから	16.3	139 人
(3) 自転車に乗る時、十分注意をしているので、自転車事故の加害者になることは考えられないから	15.2	130 人
(4) 自転車損害賠償責任保険は知っているが、自転車で事故を起こしても、保険で補償するほど必要はないと思うから	7.5	64 人
(5) 保険料が高いから	5.7	49 人
無回答	0.8	7 人

グラフ単位: (%)

2. 少子化対策について

(1) 結婚や家庭についての考え

問7 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

① 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい

※ () 内の割合はウェイトバックした値

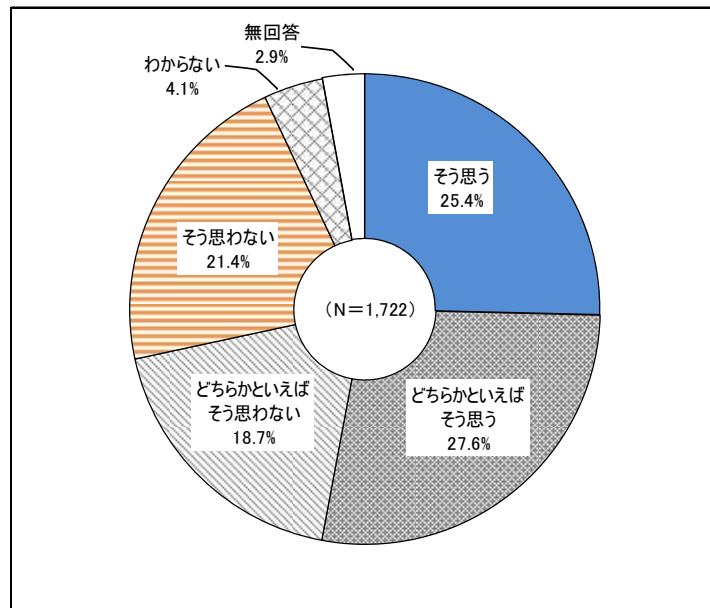
【回答者数=1,722】

1 そう思う	25.4% (26.8%)
2 どちらかといえばそう思う	27.6% (27.8%)
3 どちらかといえばそう思わない	18.7% (18.0%)
4 そう思わない	21.4% (20.5%)
5 わからない	4.1% (4.0%)
(無回答)	2.9% (2.8%)

結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてよいに対する考え方について、「どちらかといえばそう思う」(27.6%)が3割近くを占め最も高く、これに、「そう思う」の25.4%を合わせた【そう思う】が53.0%と半数を超えている。一方、「そう思わない」が21.4%で、「どちらかといえばそう思わない」の18.7%を合わせた【そう思わない】は40.1%となっており、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえばそう思う」(27.8%)が3割近くを占め最も高く、これに「そう思う」の26.8%を合わせた【そう思う】が54.6%と半数を超えている。一方、「そう思わない」が20.5%で、「どちらかといえばそう思わない」の18.0%を合わせた【そう思わない】は38.5%となっており、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

図表 2-(1)-①.1 結婚は個人の自由であるから、結婚しなくてもよい



問7 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

② 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない

※ () 内の割合はウェイトバックした値

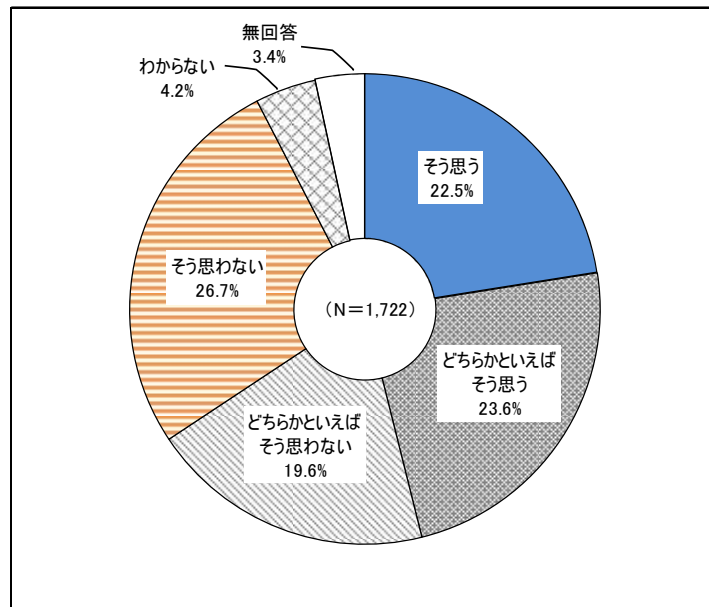
【回答者数=1,722】

1	そう思う	22.5% (24.1%)
2	どちらかといえばそう思う	23.6% (24.1%)
3	どちらかといえばそう思わない	19.6% (18.9%)
4	そう思わない	26.7% (25.5%)
5	わからない	4.2% (4.1%)
	(無回答)	3.4% (3.3%)

結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はないに対する考えについて、「そう思わない」(26.7%)が最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の19.6%を合わせた【そう思わない】が46.3%となっている。一方、「どちらかといえばそう思う」が23.6%で、「そう思う」の22.5%を合わせた【そう思う】は46.1%となっており、【そう思う】と【そう思わない】ではあまり差がみられない。

ウェイトバック集計した値をみると、「そう思わない」(25.5%)が最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の18.9%を合わせた【そう思わない】が44.4%となっている。一方、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」はともに24.1%で、両方を合わせた【そう思う】は48.2%となっており、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

図表 2-(1)-②.1 結婚しても、必ずしも子どもを持つ必要はない



問7 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

③ 結婚していなくても、子どもを持つのは自由である

※ () 内の割合はウェイトバックした値

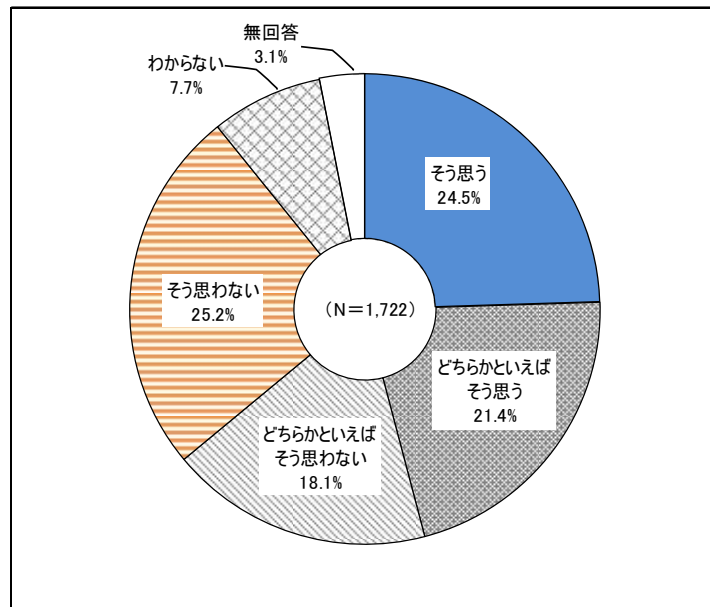
【回答者数=1,722】

1	そう思う	24.5% (25.6%)
2	どちらかといえばそう思う	21.4% (21.1%)
3	どちらかといえばそう思わない	18.1% (17.9%)
4	そう思わない	25.2% (24.7%)
5	わからない	7.7% (7.7%)
	(無回答)	3.1% (3.0%)

結婚していなくても、子どもを持つのは自由であるに対する考えについて、「そう思わない」(25.2%)が最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の18.1%を合わせた【そう思わない】が43.3%となっている。一方、「そう思う」が24.5%で、「どちらかといえばそう思う」の21.4%を合わせた【そう思う】は45.9%となっており、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

ウェイトバック集計した値をみると、「そう思う」(25.6%)が最も高く、これに「どちらかといえばそう思う」の21.1%を合わせた【そう思う】が46.7%となっている。一方、「そう思わない」が24.7%で、「どちらかといえばそう思わない」の17.9%を合わせた【そう思わない】は42.6%となっており、【そう思う】が【そう思わない】を上回っている。

図表 2-(1)-③.1 結婚していなくても、子どもを持つのは自由である



問7 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

④ 子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ

※ () 内の割合はウェイトバックした値

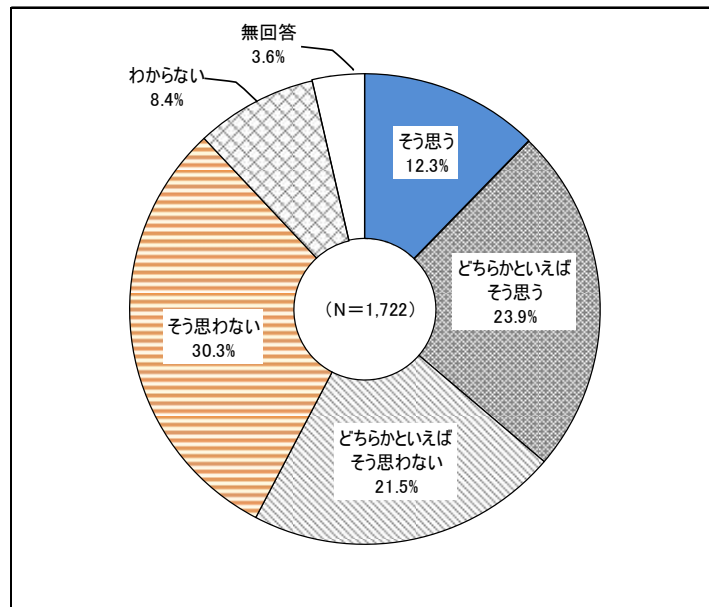
【回答者数=1,722】

1 そう思う	12.3% (12.5%)
2 どちらかといえばそう思う	23.9% (24.2%)
3 どちらかといえばそう思わない	21.5% (21.6%)
4 そう思わない	30.3% (29.4%)
5 わからない	8.4% (8.8%)
(無回答)	3.6% (3.5%)

子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだに対する考えについて、「そう思わない」(30.3%)が3割を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の21.5%を合わせた【そう思わない】が51.8%と半数を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」が23.9%で、「そう思う」の12.3%を合わせた【そう思う】は36.2%となっており、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

ウェイトバック集計した値をみると、「そう思わない」(29.4%)が3割近くを占め最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の21.6%を合わせた【そう思わない】が51.0%と半数を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」が24.2%で、「そう思う」の12.5%を合わせた【そう思う】は36.7%となっており、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

図表 2-(1)-④.1 子どもよりも、まず夫婦の生活を大切にすべきだ



問7 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

⑤ 男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい

※ () 内の割合はウェイトバックした値

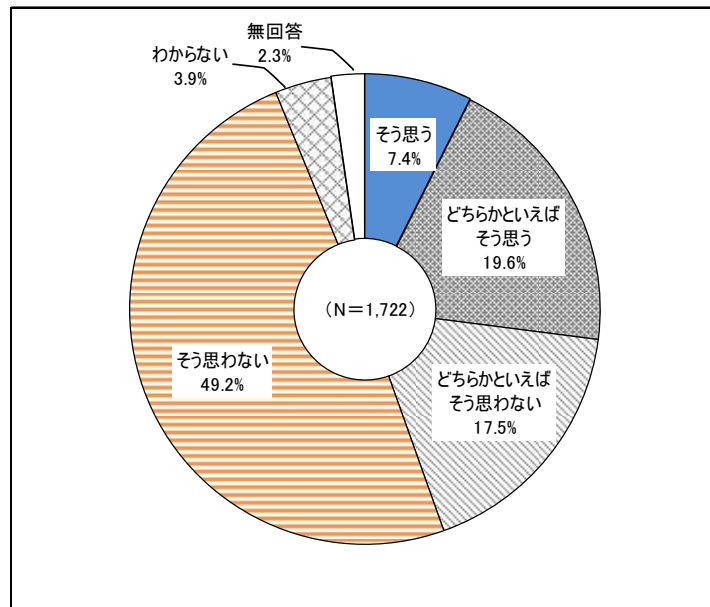
【回答者数=1,722】

1 そう思う	7.4% (7.3%)
2 どちらかといえばそう思う	19.6% (19.1%)
3 どちらかといえばそう思わない	17.5% (17.6%)
4 そう思わない	49.2% (49.6%)
5 わからない	3.9% (4.1%)
(無回答)	2.3% (2.3%)

男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましいに対する考えについて、「そう思わない」(49.2%)が半数近くを占め最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の17.5%を合わせた【そう思わない】が66.7%と半数を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」が19.6%で、「そう思う」の7.4%を合わせた【そう思う】は27.0%となっており、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

ウェイトバック集計した値をみると、「そう思わない」(49.6%)が半数近くを占め最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の17.6%を合わせた【そう思わない】が67.2%と半数を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」が19.1%で、「そう思う」の7.3%を合わせた【そう思う】は26.4%となっており、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

図表 2-(1)-⑤.1 男性は外で働き、女性は家庭を守るのが望ましい



問7 結婚や家庭についての次のそれぞれの考え方について、あなたはどのように思いますか。

⑥ 家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでない

※ () 内の割合はウェイトバックした値

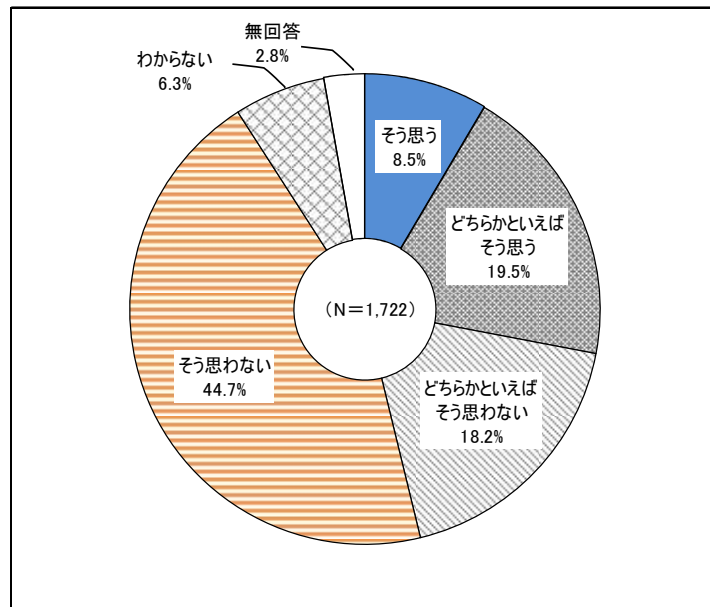
【回答者数=1,722】

1 そう思う	8.5% (8.6%)
2 どちらかといえばそう思う	19.5% (19.4%)
3 どちらかといえばそう思わない	18.2% (18.1%)
4 そう思わない	44.7% (44.7%)
5 わからない	6.3% (6.5%)
(無回答)	2.8% (2.7%)

家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでないに対する考えについて、「そう思わない」(44.7%)が4割を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の18.2%を合わせた【そう思わない】が62.9%と半数を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」が19.5%で、「そう思う」の8.5%を合わせた【そう思う】は28.0%となっており、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

ウェイトバック集計した値をみると、「そう思わない」(44.7%)が4割を超え最も高く、これに「どちらかといえばそう思わない」の18.1%を合わせた【そう思わない】が62.8%と半数を超えている。一方、「どちらかといえばそう思う」が19.4%で、「そう思う」の8.6%を合わせた【そう思う】は28.0%となっており、【そう思わない】が【そう思う】を上回っている。

図表 2-(1)-⑥.1 家事との両立が難しければ、女性は仕事をすべきでない



(2) 出生率低下の原因

問8 長期間にわたり出生率が低下し、子どもの数が減っています。あなたは、出生率の低下の原因は何だと思えますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから	66.4% (66.1%)
2	子育てのための経済的負担が大きいから	59.1% (60.2%)
3	保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的 仕組みが整っていないから	42.9% (43.3%)
4	子育てより自分自身の生活を充実させたいから	29.6% (29.4%)
5	出産や育児のための精神的、肉体的負担が大きいから	23.3% (23.2%)
6	子どもの将来を不安に思うから	14.7% (14.6%)
7	子どもは少なく生んで、大事に育てたいから	9.2% (8.9%)
8	住まいが狭い、居住費が高いなど住宅事情が悪いから	6.4% (6.3%)
9	遊び場の不足など子どもを取り巻く生活環境が悪いから	4.9% (5.0%)
10	子どもを生む必要性を感じなくなったから	4.1% (4.2%)
11	その他	5.8% (5.9%)
12	わからない	2.8% (2.7%)
	(無回答)	2.8% (2.8%)

出生率低下の原因について、「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」(66.4%)が最も高く、次いで「子育てのための経済的負担が大きいから」(59.1%)、「保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから」(42.9%)、「子育てより自分自身の生活を充実させたいから」(29.6%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから」(66.1%)が最も高く、次いで「子育てのための経済的負担が大きいから」(60.2%)、「保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから」(43.3%)、「子育てより自分自身の生活を充実させたいから」(29.4%)などとなっている。

図表 2-(2)-1 出生率低下の原因

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 男女ともに初婚年齢が高くなり、未婚も増えているから	66.4	1,143 人
(2) 子育てのための経済的負担が大きいから	59.1	1,018 人
(3) 保育施設や育児休業などの子育てと仕事を両立させる社会的仕組みが整っていないから	42.9	738 人
(4) 子育てより自分自身の生活を充実させたいから	29.6	509 人
(5) 出産や育児のための精神的、肉体的負担が大きいから	23.3	401 人
(6) 子どもの将来を不安に思うから	14.7	253 人
(7) 子どもは少なく生んで、大事に育てたいから	9.2	159 人
(8) 住まいが狭い、居住費が高いなど住宅事情が悪いから	6.4	110 人
(9) 遊び場の不足など子どもを取り巻く生活環境が悪いから	4.9	85 人
(10) 子どもを生む必要性を感じなくなったから	4.1	70 人
(11) その他	5.8	100 人
(12) わからない	2.8	48 人
無回答	2.8	49 人

グラフ単位：(%)

(3) 少子化対策・子育て支援施策の中で最も重要だと思う施策

問9 以下の具体的な少子化対策・子育て支援施策について、あなたが、(1)最も重要だと思う施策を、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	42.4% (43.4%)
2	労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	29.1% (29.9%)
3	結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	27.7% (26.7%)
4	子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	23.1% (23.4%)
5	若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	22.3% (21.7%)
6	保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	16.9% (17.2%)
7	妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	15.6% (16.1%)
8	妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	14.7% (14.9%)
9	地域における子ども・子育て支援の充実	13.9% (14.0%)
10	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	12.9% (12.9%)
11	子育て家庭への支援ネットワークの充実	9.2% (9.2%)
12	児童虐待防止対策の充実	6.6% (6.7%)
13	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	5.7% (5.7%)
14	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	5.1% (5.1%)
15	バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	3.2% (3.3%)
16	その他	2.1% (2.1%)
	(無回答)	12.4% (11.9%)

少子化対策・子育て支援施策の中で重要だと思う施策について、「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」(42.4%)が最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」(29.1%)、「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」(27.7%)、「子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保」(23.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」(43.4%)が最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」(29.9%)、「結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成」(26.7%)、「子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保」(23.4%)などとなっている。

図表 2-(3)-1 少子化対策・子育て支援施策の中で重要だと思う施策

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	42.4	730 人
(2) 労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	29.1	501 人
(3) 結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	27.7	477 人
(4) 子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	23.1	397 人
(5) 若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	22.3	384 人
(6) 保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	16.9	291 人
(7) 妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	15.6	269 人
(8) 妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	14.7	253 人
(9) 地域における子ども・子育て支援の充実	13.9	240 人
(10) 確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	12.9	222 人
(11) 子育て家庭への支援ネットワークの充実	9.2	158 人
(12) 児童虐待防止対策の充実	6.6	114 人
(13) 子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	5.7	98 人
(14) 子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	5.1	88 人
(15) バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	3.2	55 人
(16) その他	2.1	36 人
無回答	12.4	213 人

グラフ単位：(%)

(4) 少子化対策・子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策

問9 以下の具体的な少子化対策・子育て支援施策について、あなたが、(2) 充実度に不満がある施策を、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	31.2% (32.0%)
2	労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	26.8% (27.8%)
3	保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	26.8% (27.3%)
4	若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	19.0% (18.9%)
5	子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	17.1% (17.2%)
6	児童虐待防止対策の充実	13.9% (13.7%)
7	子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	13.5% (13.1%)
8	確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	12.4% (12.3%)
9	地域における子ども・子育て支援の充実	11.3% (11.0%)
10	子育て家庭への支援ネットワークの充実	10.0% (10.0%)
11	結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	9.7% (9.6%)
12	バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	7.3% (7.5%)
13	妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	6.9% (6.8%)
14	妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	4.1% (4.2%)
15	子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	3.7% (3.7%)
16	その他	2.3% (2.3%)
	(無回答)	20.5% (19.8%)

少子化対策・子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策について、「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」(31.2%)が最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」、「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」(ともに26.8%)、「若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成」(19.0%)、「子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保」(17.1%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減」(32.0%)が最も高く、次いで「労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援」(27.8%)、「保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保」(27.3%)、「若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成」(18.9%)などとなっている。

図表 2-(4)-1 少子化対策・子育て支援施策の中で充実度に不満がある施策

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 保育料や教育費など、子育てに伴う経済的負担の軽減	31.2	537 人
(2) 労働時間の短縮など仕事と家庭生活の両立支援	26.8	462 人
(3) 保育士や幼稚園教諭など、子ども・子育て支援を担う人材の確保	26.8	462 人
(4) 若者の社会的・経済的自立の支援など次代の親の育成	19.0	328 人
(5) 子育て家庭のニーズを踏まえた保育サービスの確保	17.1	294 人
(6) 児童虐待防止対策の充実	13.9	240 人
(7) 子どもを取り巻く有害な社会環境を浄化する対策の推進	13.5	232 人
(8) 確かな学力と豊かな人間性を育てる学校教育の推進	12.4	214 人
(9) 地域における子ども・子育て支援の充実	11.3	194 人
(10) 子育て家庭への支援ネットワークの充実	10.0	173 人
(11) 結婚を希望する男女の出会いの場の創出や結婚を応援する気運の醸成	9.7	167 人
(12) バリアフリーの推進など、子どもや子育て家庭にやさしいまちづくり	7.3	125 人
(13) 妊産婦や乳幼児が安心して受診できる母子医療体制の充実	6.9	118 人
(14) 妊産婦や乳幼児の健康診査・相談など、安心できる母子保健事業の推進	4.1	71 人
(15) 子どもを健やかに育てるための健康づくりの推進	3.7	64 人
(16) その他	2.3	39 人
無回答	20.5	353 人

グラフ単位：(%)

(5) 現在の子育てを取り巻く環境や施策

問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

① 身近に子育て支援サービスがある

※ () 内の割合はウェイトバックした値

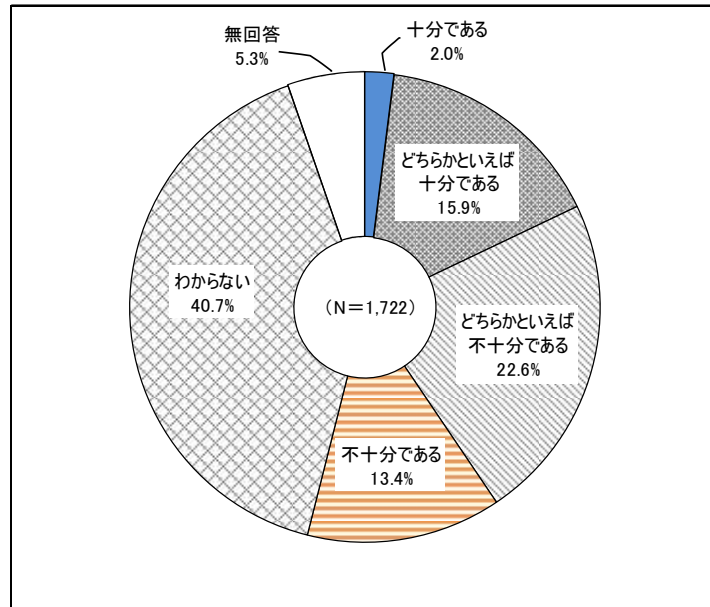
【回答者数=1,722】

1 十分である	2.0% (2.1%)
2 どちらかといえば十分である	15.9% (16.4%)
3 どちらかといえば不十分である	22.6% (22.5%)
4 不十分である	13.4% (13.0%)
5 わからない	40.7% (40.9%)
(無回答)	5.3% (5.2%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、身近に子育て支援サービスがあるの状況について、「どちらかといえば不十分である」(22.6%)が2割を超え、これに「不十分である」の13.4%を合わせた【不十分である】が36.0%と3割を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が15.9%で、「十分である」の2.0%を合わせた【十分である】は17.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば不十分である」(22.5%)が2割を超え、これに「不十分である」の13.0%を合わせた【不十分である】が35.5%と3割を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が16.4%で、「十分である」の2.1%を合わせた【十分である】は18.5%となっている。

図表 2-(5)-①.1 身近に子育て支援サービスがある



問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

② 子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制がある

※ () 内の割合はウェイトバックした値

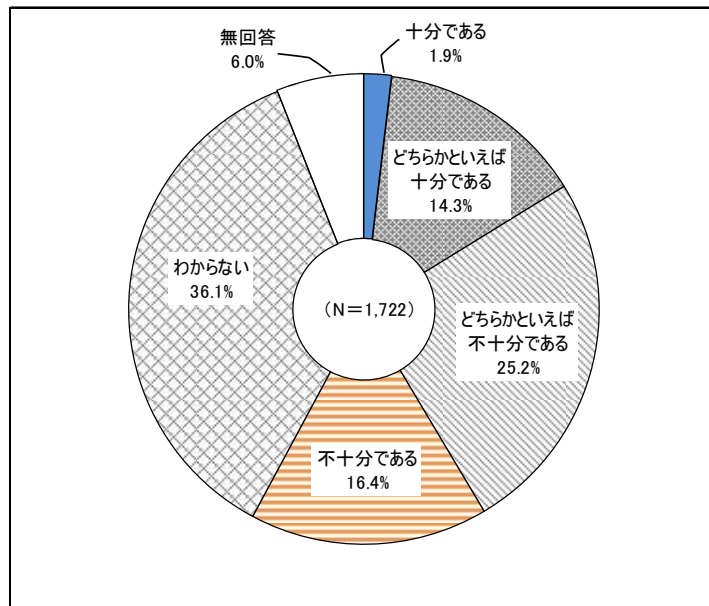
【回答者数=1,722】

1 十分である	1.9% (2.1%)
2 どちらかといえば十分である	14.3% (14.8%)
3 どちらかといえば不十分である	25.2% (25.0%)
4 不十分である	16.4% (15.7%)
5 わからない	36.1% (36.5%)
(無回答)	6.0% (5.9%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制があるの状況について、「どちらかといえば不十分である」(25.2%)が2割を超え、これに「不十分である」の16.4%を合わせた【不十分である】が41.6%と4割を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が14.3%で、「十分である」の1.9%を合わせた【十分である】は16.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば不十分である」(25.0%)が2割を超え、これに「不十分である」の15.7%を合わせた【不十分である】が40.7%と4割を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が14.8%で、「十分である」の2.1%を合わせた【十分である】は16.9%となっている。

図表 2-(5)-②.1 子育てについて困ったときに相談したり支えあう体制がある



問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

③ 子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である

※ () 内の割合はウェイトバックした値

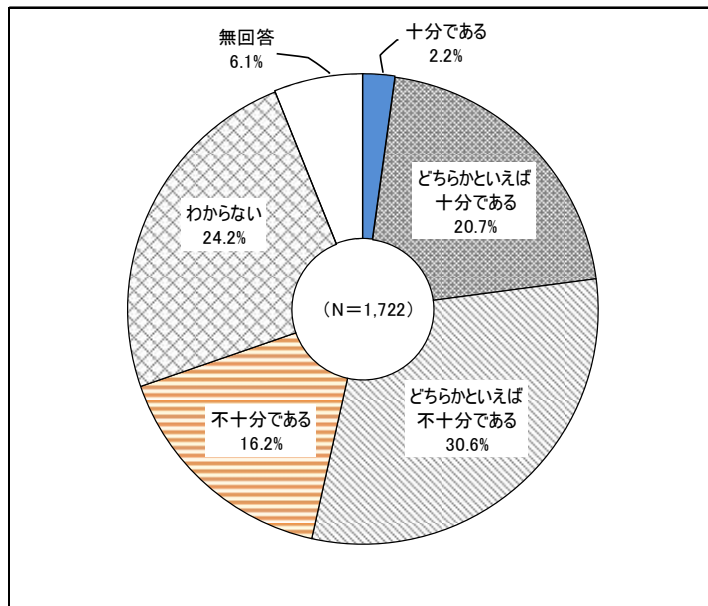
【回答者数=1,722】

1 十分である	2.2% (2.3%)
2 どちらかといえば十分である	20.7% (21.0%)
3 どちらかといえば不十分である	30.6% (29.8%)
4 不十分である	16.2% (16.3%)
5 わからない	24.2% (24.7%)
(無回答)	6.1% (5.9%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、子どもや子育て家庭にやさしい生活環境であるの状況について、「どちらかといえば不十分である」(30.6%)が3割を超え最も高く、これに「不十分である」の16.2%を合わせた【不十分である】が46.8%と4割を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が20.7%で、「十分である」の2.2%を合わせた【十分である】は22.9%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば不十分である」(29.8%)が3割近くを占め最も高く、これに「不十分である」の16.3%を合わせた【不十分である】が46.1%と4割を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が21.0%で、「十分である」の2.3%を合わせた【十分である】は23.3%となっている。

図表 2-(5)-③.1 子どもや子育て家庭にやさしい生活環境である



問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

④ 働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる

※ () 内の割合はウェイトバックした値

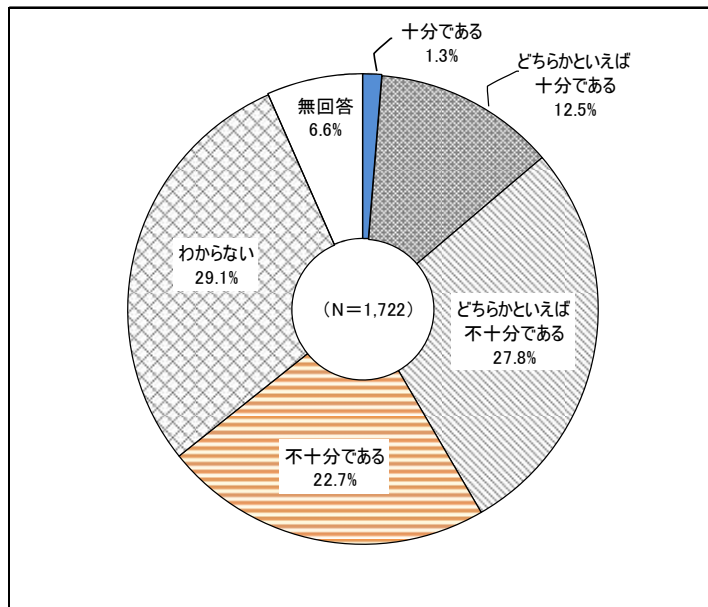
【回答者数=1,722】

1 十分である	1.3% (1.4%)
2 どちらかといえば十分である	12.5% (12.9%)
3 どちらかといえば不十分である	27.8% (27.3%)
4 不十分である	22.7% (22.3%)
5 わからない	29.1% (29.7%)
(無回答)	6.6% (6.4%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられるの状況について、「どちらかといえば不十分である」(27.8%)が2割を超え、これに「不十分である」の22.7%を合わせた【不十分である】が50.5%と半数を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が12.5%で、「十分である」の1.3%を合わせた【十分である】は13.8%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば不十分である」(27.3%)が3割近くを占め、これに「不十分である」の22.3%を合わせた【不十分である】が49.6%と半数近くを占めている。一方、「どちらかといえば十分である」が12.9%で、「十分である」の1.4%を合わせた【十分である】は14.3%となっている。

図表 2-(5)-④.1 働き方やライフスタイルに応じた保育サービスを受けられる



問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

⑤ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が図られている

※ () 内の割合はウェイトバックした値

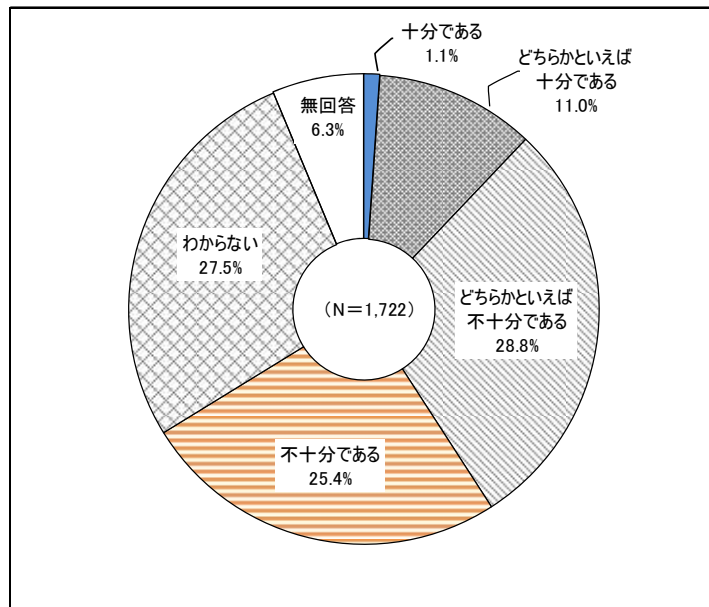
【回答者数=1,722】

1 十分である	1.1% (1.2%)
2 どちらかといえば十分である	11.0% (11.3%)
3 どちらかといえば不十分である	28.8% (28.6%)
4 不十分である	25.4% (25.3%)
5 わからない	27.5% (27.5%)
(無回答)	6.3% (6.1%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）が図られているの状況について、「どちらかといえば不十分である」（28.8%）が3割近くを占め最も高く、これに「不十分である」の25.4%を合わせた【不十分である】が54.2%と半数を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が11.0%で、「十分である」の1.1%を合わせた【十分である】は12.1%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば不十分である」（28.6%）が3割近くを占め最も高く、これに「不十分である」の25.3%を合わせた【不十分である】が53.9%と半数を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が11.3%で、「十分である」の1.2%を合わせた【十分である】は12.5%となっている。

図表 2-(5)-⑤.1 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)が図られている



問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

⑥ 子育てにかかる費用について社会的支援がなされている

※ () 内の割合はウェイトバックした値

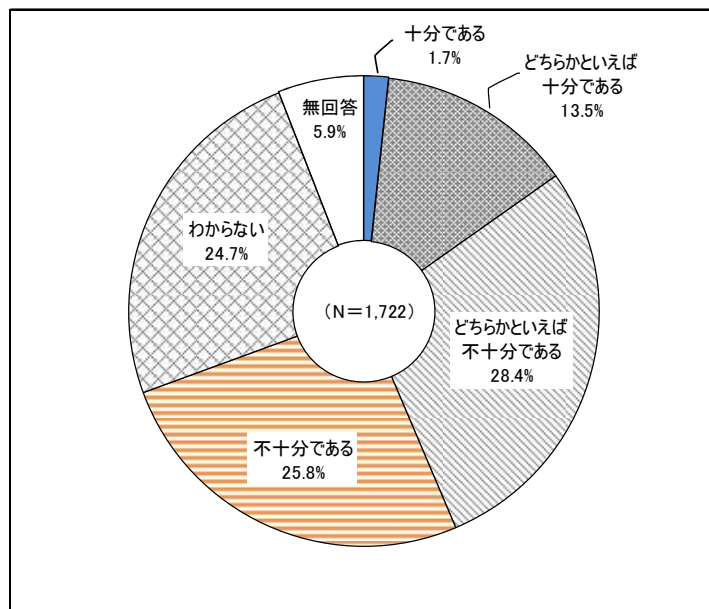
【回答者数=1,722】

1 十分である	1.7% (1.6%)
2 どちらかといえば十分である	13.5% (13.4%)
3 どちらかといえば不十分である	28.4% (28.1%)
4 不十分である	25.8% (26.0%)
5 わからない	24.7% (25.1%)
(無回答)	5.9% (5.7%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、子育てにかかる費用について社会的支援がなされているの状況について、「どちらかといえば不十分である」(28.4%)が3割近くを占め最も高く、これに「不十分である」の25.8%を合わせた【不十分である】が54.2%と半数を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が13.5%で、「十分である」の1.7%を合わせた【十分である】は15.2%となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば不十分である」(28.1%)が3割近くを占め最も高く、これに「不十分である」の26.0%を合わせた【不十分である】が54.1%と半数を超えている。一方、「どちらかといえば十分である」が13.4%で、「十分である」の1.6%を合わせた【十分である】は15.0%となっている。

図表 2-(5)-⑥.1 子育てにかかる費用について社会的支援がなされている



問10 現在の子育てを取り巻く環境や施策について、あなたはどのように思いますか。

⑦ 安心して出産・育児ができる医療環境である

※ () 内の割合はウェイトバックした値

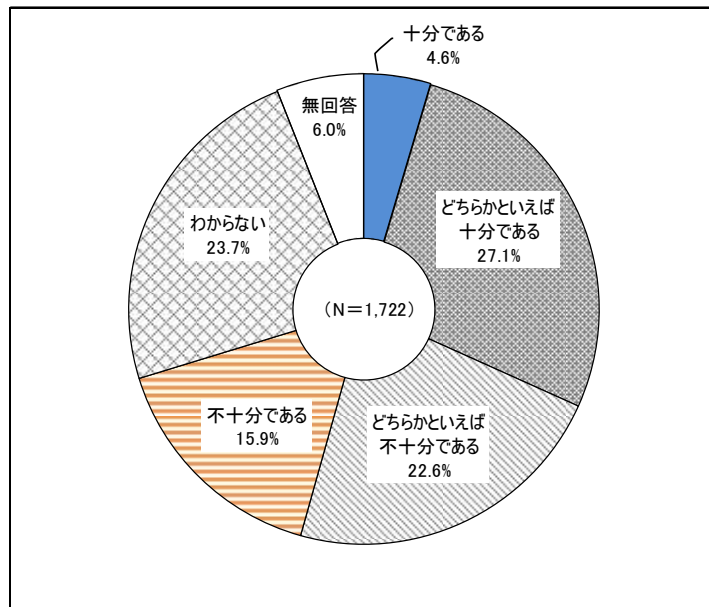
【回答者数=1,722】

1 十分である	4.6% (4.8%)
2 どちらかといえば十分である	27.1% (27.1%)
3 どちらかといえば不十分である	22.6% (22.4%)
4 不十分である	15.9% (15.6%)
5 わからない	23.7% (24.3%)
(無回答)	6.0% (5.8%)

現在の子育てを取り巻く環境や施策として、安心して出産・育児ができる医療環境であるの状況について、「どちらかといえば十分である」(27.1%)が3割近くを占め最も高く、これに「十分である」の4.6%を合わせた【十分である】が31.7%となっている。一方、「どちらかといえば不十分である」が22.6%で、「不十分である」の15.9%を合わせた【不十分である】は38.5%となっており、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば十分である」(27.1%)が3割近くを占め最も高く、これに「十分である」の4.8%を合わせた【十分である】が31.9%となっている。一方、「どちらかといえば不十分である」が22.4%で、「不十分である」の15.6%を合わせた【不十分である】は38.0%となっており、【不十分である】が【十分である】を上回っている。

図表 2-(5)-⑦.1 安心して出産・育児ができる医療環境である



(6) 子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待すること

問11 社会全体が一体となって子育て・子育てを支える社会を目指していくために、以下の活動について、(1)地域での充実を期待することを、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	48.0% (48.5%)
2	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	40.2% (40.2%)
3	いじめを見たら注意したり、通報すること	37.7% (38.1%)
4	子育てに関する相談にのること	32.6% (32.1%)
5	子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	26.0% (27.1%)
6	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	19.4% (19.4%)
7	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	18.3% (18.2%)
8	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	14.3% (14.3%)
9	その他	1.3% (1.4%)
10	わからない	2.7% (2.8%)
	(無回答)	12.2% (11.7%)

子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待することについて、「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」(48.0%)が最も高く、次いで「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」(40.2%)、「いじめを見たら注意したり、通報すること」(37.7%)、「子育てに関する相談にのること」(32.6%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること」(48.5%)が最も高く、次いで「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」(40.2%)、「いじめを見たら注意したり、通報すること」(38.1%)、「子育てに関する相談にのること」(32.1%)などとなっている。

図表 2-(6)-1 子育て・子育てを支える社会を目指していくために地域での充実を期待すること

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	48.0	826 人
(2) 子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	40.2	692 人
(3) いじめを見たら注意したり、通報すること	37.7	650 人
(4) 子育てに関する相談にのること	32.6	562 人
(5) 子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	26.0	447 人
(6) 子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	19.4	334 人
(7) 保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	18.3	315 人
(8) 不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	14.3	246 人
(9) その他	1.3	23 人
(10) わからない	2.7	47 人
無回答	12.2	210 人

グラフ単位：(%)

(6) 子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい(している)こと

問11 社会全体が一体となって子育て・子育てを支える社会を目指していくために、以下の活動について、(2)あなたがしてみたい(している)ことを、次の中から3つまで選んで回答欄に番号を記入してください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	41.5% (41.3%)
2	子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	35.7% (35.8%)
3	不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	29.0% (29.7%)
4	いじめを見たら注意したり、通報すること	27.8% (27.5%)
5	保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	21.5% (21.8%)
6	親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	14.9% (14.4%)
7	子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	14.3% (14.8%)
8	子育てに関する相談にのること	11.9% (12.0%)
9	その他	0.9% (0.9%)
10	わからない	7.5% (7.8%)
	(無回答)	17.5% (16.8%)

子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい(している)ことについて、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」(41.5%)が最も高く、次いで「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」(35.7%)、「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと」(29.0%)、「いじめを見たら注意したり、通報すること」(27.8%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること」(41.3%)が最も高く、次いで「子どもや妊婦、乳幼児を連れた保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること」(35.8%)、「不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと」(29.7%)、「いじめを見たら注意したり、通報すること」(27.5%)などとなっている。

図表 2-(6)-3 子育て・子育てを支える社会を目指していくためにしてみたい(している)こと

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 子どもが危険なことやいたずらをしたら注意すること	41.5	715 人
(2) 子どもや妊婦、乳幼児を連れて保護者に配慮して交通ルール・マナー等を守ること	35.7	614 人
(3) 不要となった絵本や玩具などを譲ったり貸し出すこと	29.0	500 人
(4) いじめを見たら注意したり、通報すること	27.8	479 人
(5) 保育所、幼稚園や学校の保育・教育活動への参加や協力をすること	21.5	371 人
(6) 親などに急用があるときに、子どもを一時的に預かること	14.9	256 人
(7) 子ども会活動などでスポーツや遊びの指導をすること	14.3	247 人
(8) 子育てに関する相談にのること	11.9	205 人
(9) その他	0.9	16 人
(10) わからない	7.5	129 人
無回答	17.5	302 人

グラフ単位：(%)

(7) 育児をしながら働き続けるための条件・制度

問12 あなたは、育児をしながら働き続けるためには、どのような条件や制度が必要と思いますか。
次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の 繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入	39.5% (39.8%)
2	延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、 多様な保育サービスの提供	38.7% (37.6%)
3	育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	32.5% (33.4%)
4	医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	30.6% (31.3%)
5	職業能力開発、相談・情報提供など、出産・子育てのために 退職した者への再就職支援	25.3% (25.2%)
6	保育料など、各種制度利用に対する費用負担の軽減措置	24.2% (24.4%)
7	事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援の充実	21.1% (20.9%)
8	事業所内託児施設の設置	20.8% (20.5%)
9	育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	16.5% (16.8%)
10	職場優先の企業風土の是正	15.0% (15.3%)
11	ファミリー・サポート・センターの設置	4.9% (4.6%)
12	その他	0.8% (0.8%)
	(無回答)	6.3% (6.1%)

育児をしながら働き続けるための条件や制度について、「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」(39.5%)が最も高く、次いで「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」(38.7%)、「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」(32.5%)、「医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実」(30.6%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入」(39.8%)が最も高く、次いで「延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供」(37.6%)、「育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援」(33.4%)、「医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実」(31.3%)などとなっている。

図表 2-(7)-1 育児をしながら働き続けるための条件・制度

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 短時間勤務制度、フレックスタイム制、始業・終業時刻の繰り上げ・繰り下げなど、弾力的な勤務形態の導入	39.5	680 人
(2) 延長保育、一時預かり、休日保育、病児・病後児保育など、多様な保育サービスの提供	38.7	666 人
(3) 育児休業給付金の増額など、育児休業中の経済的支援	32.5	560 人
(4) 医療費助成や児童手当など、経済的支援の充実	30.6	527 人
(5) 職業能力開発、相談・情報提供など、出産・子育てのために退職した者への再就職支援	25.3	436 人
(6) 保育料など、各種制度利用に対する費用負担の軽減措置	24.2	417 人
(7) 事業所での代替要員の確保、職場復帰への支援の充実	21.1	363 人
(8) 事業所内託児施設の設置	20.8	358 人
(9) 育児休業期間の延長など、育児休業制度の充実	16.5	284 人
(10) 職場優先の企業風土の是正	15.0	258 人
(11) ファミリー・サポート・センターの設置	4.9	84 人
(12) その他	0.8	14 人
無回答	6.3	108 人

グラフ単位：(%)

3. 障害福祉について

(1) 障害福祉についての関心度について

問13 あなたは、障害福祉についてどの程度ご関心がありますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

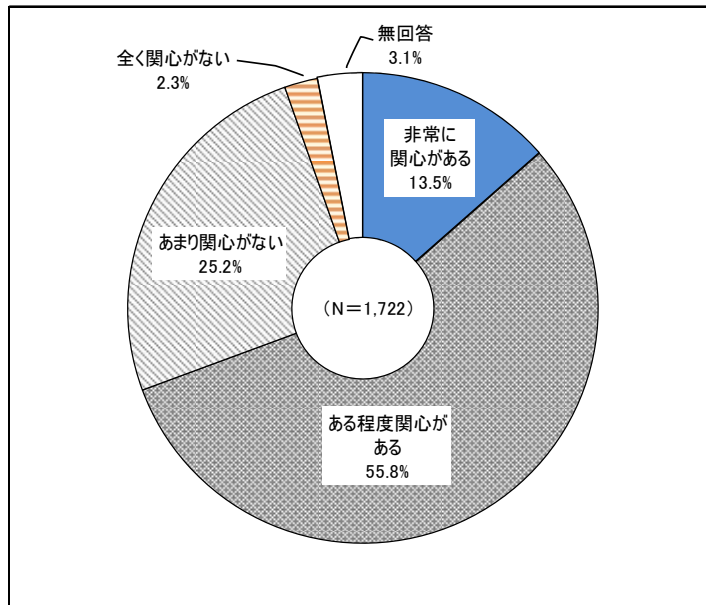
【回答者数=1,722】

1 非常に関心がある	13.5% (13.3%)
2 ある程度関心がある	55.8% (55.2%)
3 あまり関心がない	25.2% (26.2%)
4 全く関心がない	2.3% (2.4%)
(無回答)	3.1% (3.0%)

障害福祉についての関心度について、「ある程度関心がある」(55.8%)が最も高く、次いで「あまり関心がない」(25.2%)、「非常に関心がある」(13.5%)、「全く関心がない」(2.3%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「ある程度関心がある」(55.2%)が最も高く、次いで「あまり関心がない」(26.2%)、「非常に関心がある」(13.3%)、「全く関心がない」(2.4%)となっている。

図表 3-(1)-1 障害福祉についての関心度



(2)障害福祉に関心が持てない理由について

【問13で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問2 障害福祉に関心が持てない理由を、次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

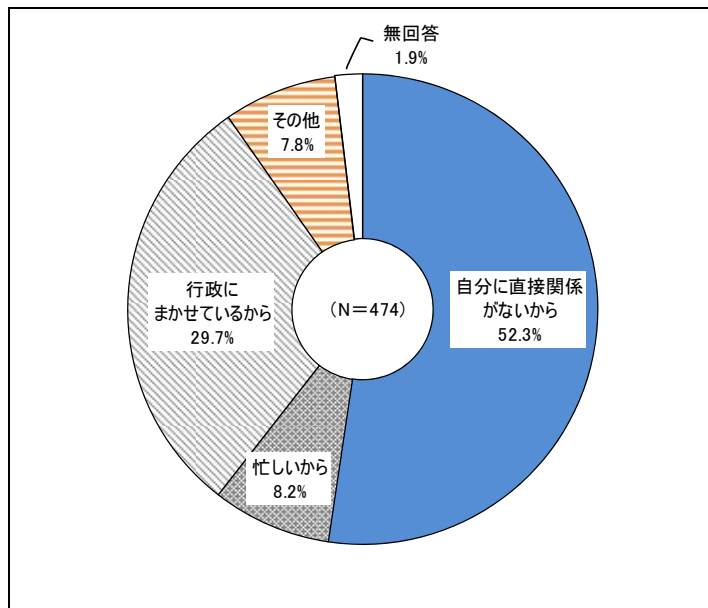
【回答者数=474 (492)】

1 自分に直接関係がないから	52.3% (53.6%)
2 忙しいから	8.2% (8.6%)
3 行政にまかせているから	29.7% (28.3%)
4 その他	7.8% (7.7%)
(無回答)	1.9% (1.8%)

障害福祉に関心が持てない理由について、「自分に直接関係がないから」(52.3%)が最も高く、次いで「行政にまかせているから」(29.7%)、「忙しいから」(8.2%)、「その他」(7.8%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「自分に直接関係がないから」(53.6%)が最も高く、次いで「行政にまかせているから」(28.3%)、「忙しいから」(8.6%)、「その他」(7.7%)となっている。

図表 3-(2)-1 障害福祉に関心が持てない理由



(3)障害者総合支援法について

問14 障害者総合支援法では、障害のある方も可能な限り地域において生活できる社会を目指すことが大きなテーマのひとつになっています。具体的には、入所施設を利用し続けるのではなく、地域で福祉サービスを利用しながらグループホームなどで生活することを目指すものですが、このような考え方について、どのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

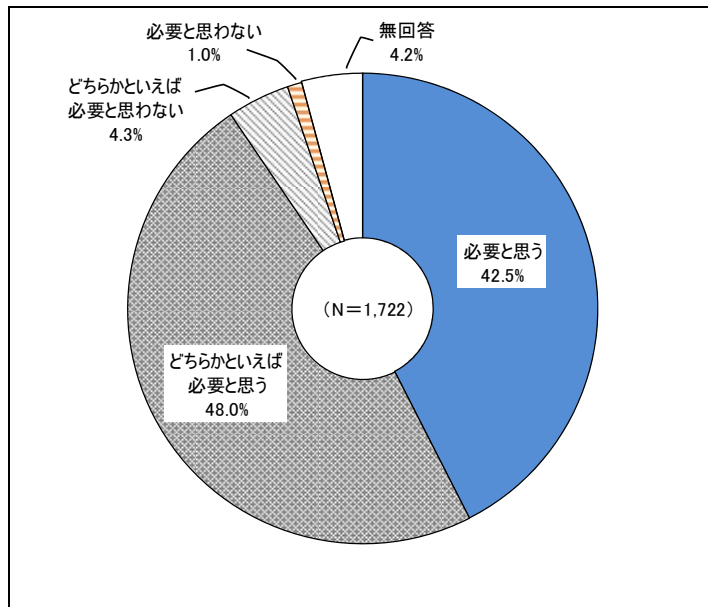
【回答者数=1,722】

1 必要と思う	42.5% (42.0%)
2 どちらかといえば必要と思う	48.0% (48.3%)
3 どちらかといえば必要と思わない	4.3% (4.5%)
4 必要と思わない	1.0% (1.1%)
(無回答)	4.2% (4.1%)

障害者総合支援法について、「どちらかといえば必要と思う」(48.0%)が最も高く、次いで「必要と思う」(42.5%)、「どちらかといえば必要と思わない」(4.3%)、「必要と思わない」(1.0%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「どちらかといえば必要と思う」(48.3%)が最も高く、次いで「必要と思う」(42.0%)、「どちらかといえば必要と思わない」(4.5%)、「必要と思わない」(1.1%)となっている。

図表 3-(3)-1 障害者総合支援法について



(4)障害のある方が地域で生活していくために必要なものについて

【問14で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問3 障害のある方が地域で生活していくためには何が重要だと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,558 (1,554)】※回答数の多い順に並び替え

1	障害のある方が働く場の確保、充実	61.9% (62.0%)
2	障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成	31.2% (31.8%)
3	障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり	27.2% (26.4%)
4	ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実	21.9% (21.5%)
5	手当、年金などの所得保障の充実	19.2% (18.9%)
6	グループホームなど住まいの確保	17.0% (16.8%)
7	施設や交通機関などのバリアフリー化	11.9% (12.6%)
8	その他	0.5% (0.5%)
	(無回答)	1.9% (1.9%)

障害のある方が地域で生活していくために必要なものについて、「障害のある方が働く場の確保、充実」(61.9%)が最も高く、次いで「障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」(31.2%)、「障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり」(27.2%)、「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」(21.9%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害のある方が働く場の確保、充実」(62.0%)が最も高く、次いで「障害のある方とともに地域で暮らすことに関する住民意識の醸成」(31.8%)、「障害のある方が困ったときに相談できる体制づくり」(26.4%)、「ヘルパーの派遣など在宅サービスの充実」(21.5%)などとなっている。

図表 3-(4)-1 障害のある方が地域で生活していくために必要なもの

		回答数
全体	100.0	1,558 人
(1) 障害のある方が働く場の確保、 充実	61.9	964 人
(2) 障害のある方とともに地域で暮 らすことに関する住民意識の醸 成	31.2	486 人
(3) 障害のある方が困ったときに相 談できる体制づくり	27.2	423 人
(4) ヘルパーの派遣など在宅サービ スの充実	21.9	341 人
(5) 手当、年金などの所得保障の 充実	19.2	299 人
(6) グループホームなど住まいの確 保	17.0	265 人
(7) 施設や交通機関などのバリアフ リー化	11.9	185 人
(8) その他	0.5	8 人
無回答	1.9	30 人

グラフ単位：(%)

(5) 障害のある方の就労支援について

問15 障害者総合支援法では、障害のある方の就労支援もテーマになっています。これは、障害のある方もできる限りその能力を最大限にいかして、仕事に就くことができる社会の実現を目指すものですが、このような考え方についてどのように思いますか。次の中から1つだけ選んでください。(なお、ここでいう障害のある方とは、障害のある児童や高齢者は含みません。)

※ () 内の割合はウェイトバックした値

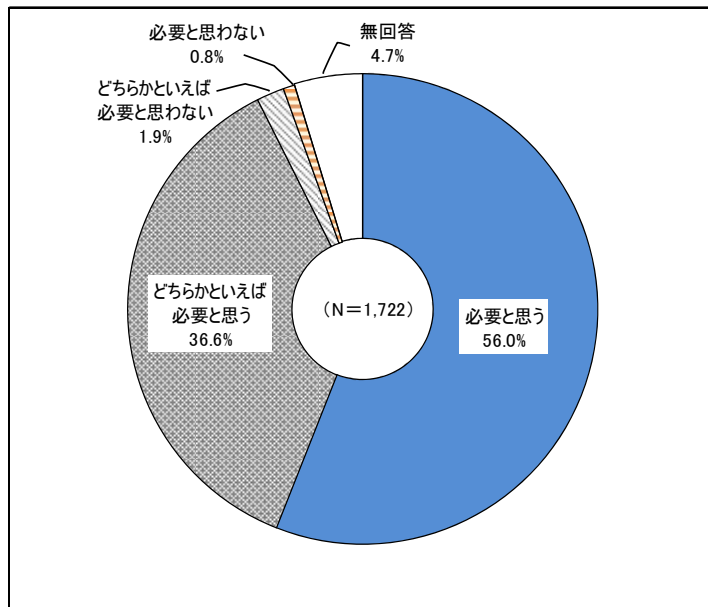
【回答者数=1,722】

1 必要と思う	56.0% (56.4%)
2 どちらかといえば必要と思う	36.6% (36.2%)
3 どちらかといえば必要と思わない	1.9% (2.0%)
4 必要と思わない	0.8% (0.9%)
(無回答)	4.7% (4.4%)

障害のある方の就労支援について、「必要と思う」(56.0%)が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」(36.6%)、「どちらかといえば必要と思わない」(1.9%)、「必要と思わない」(0.8%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「必要と思う」(56.4%)が最も高く、次いで「どちらかといえば必要と思う」(36.2%)、「どちらかといえば必要と思わない」(2.0%)、「必要と思わない」(0.9%)となっている。

図表 3-(5)-1 障害のある方の就労支援について



(6) 障害のある方が就労するために必要なものについて

【問15で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問4 障害のある方が就労するためには何が重要だと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,595 (1,594)】 ※回答数の多い順に並び替え

1 障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解	72.7% (72.5%)
2 就労に向けた訓練施設等の充実	40.4% (40.2%)
3 企業に対する助成制度の充実	26.8% (26.8%)
4 障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化	16.2% (16.2%)
5 ハローワークなどにおける職業紹介制度の充実	15.7% (16.1%)
6 障害のある方の家族の理解と協力	13.2% (13.3%)
7 その他	1.2% (1.2%)
(無回答)	0.9% (0.9%)

障害のある方が就労するために必要なものについて、「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」(72.7%)が最も高く、次いで「就労に向けた訓練施設等の充実」(40.4%)、「企業に対する助成制度の充実」(26.8%)、「障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化」(16.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害のある方が働きやすい仕事の開発、職場環境づくりなど企業の理解」(72.5%)が最も高く、次いで「就労に向けた訓練施設等の充実」(40.2%)、「企業に対する助成制度の充実」(26.8%)、「障害者雇用についての企業に対する義務付けの強化」(16.2%)などとなっている。

図表 3-(6)-1 障害のある方が就労するために必要なもの

		回答数
全体	100.0	1,595 人
(1) 障害のある方が働きやすい仕事 の開発、職場環境づくりなど 企業の理解	72.7	1,159 人
(2) 就労に向けた訓練施設等の充 実	40.4	644 人
(3) 企業に対する助成制度の充実	26.8	427 人
(4) 障害者雇用についての企業に 対する義務付けの強化	16.2	259 人
(5) ハローワークなどにおける職業紹 介制度の充実	15.7	251 人
(6) 障害のある方の家族の理解と 協力	13.2	210 人
(7) その他	1.2	19 人
無回答	0.9	14 人

グラフ単位：(%)

(7)障害のある方の権利擁護について

問16 平成28年4月から、障害の有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現に向け、障害を理由とする差別の解消を推進することを目的とした障害者差別解消法が施行されています。障害のある方の権利擁護（差別や虐待の防止など）について、行政はどのようなことに特に力を入れるべきだと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

※（）内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1 障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援	51.2% (50.7%)
2 障害者への理解促進のための啓発活動	40.1% (40.4%)
3 障害者虐待の早期発見と早期対応	35.8% (36.2%)
4 障害者差別や虐待についての相談窓口の充実	29.8% (29.4%)
5 成年後見制度についての相談窓口の充実	13.5% (13.4%)
6 成年後見制度についての啓発活動	11.0% (11.2%)
7 その他	1.1% (1.1%)
(無回答)	3.5% (3.3%)

障害のある方の権利擁護について、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」(51.2%)が最も高く、次いで「障害者への理解促進のための啓発活動」(40.1%)、「障害者虐待の早期発見と早期対応」(35.8%)、「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」(29.8%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害者差別や虐待を未然に防止するための関係者等への指導・支援」(50.7%)が最も高く、次いで「障害者への理解促進のための啓発活動」(40.4%)、「障害者虐待の早期発見と早期対応」(36.2%)、「障害者差別や虐待についての相談窓口の充実」(29.4%)などとなっている。

図表 3-(7)-1 障害のある方の権利擁護

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 障害者差別や虐待を未然に防 止するための関係者等への指 導・支援	51.2	881 人
(2) 障害者への理解促進のための 啓発活動	40.1	690 人
(3) 障害者虐待の早期発見と早期 対応	35.8	616 人
(4) 障害者差別や虐待についての 相談窓口の充実	29.8	514 人
(5) 成年後見制度についての相談 窓口の充実	13.5	233 人
(6) 成年後見制度についての啓発 活動	11.0	189 人
(7) その他	1.1	19 人
無回答	3.5	60 人

グラフ単位：(%)

(8) 障害のある方の防災対策について

問17 東日本大震災や熊本地震のような災害に備えるため、障害のある方の防災対策として何が必要だと考えますか。次の中から2つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	54.5% (54.4%)
2	災害時における障害のある方の避難体制の整備	46.7% (46.4%)
3	地域内での要支援者の把握	42.2% (42.3%)
4	自主防災組織の充実、避難訓練	18.4% (18.4%)
5	障害のある方が必要とする物資の備蓄	17.2% (17.7%)
6	災害時における情報提供（携帯メールによる情報配信など）の充実	9.9% (9.8%)
7	その他	0.7% (0.7%)
	(無回答)	2.2% (2.1%)

障害のある方の防災対策について、「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」(54.5%)が最も高く、次いで「災害時における障害のある方の避難体制の整備」(46.7%)、「地域内での要支援者の把握」(42.2%)、「自主防災組織の充実、避難訓練」(18.4%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援」(54.4%)が最も高く、次いで「災害時における障害のある方の避難体制の整備」(46.4%)、「地域内での要支援者の把握」(42.3%)、「自主防災組織の充実、避難訓練」(18.4%)などとなっている。

図表 3-(8)-1 障害のある方の防災対策

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 障害の特性にあった避難場所の確保、避難場所における支援	54.5	939 人
(2) 災害時における障害のある方の避難体制の整備	46.7	804 人
(3) 地域内での要支援者の把握	42.2	726 人
(4) 自主防災組織の充実、避難訓練	18.4	317 人
(5) 障害のある方が必要とする物資の備蓄	17.2	296 人
(6) 災害時における情報提供(携帯メールによる情報配信など)の充実	9.9	170 人
(7) その他	0.7	12 人
無回答	2.2	38 人

グラフ単位：(%)

(9)障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が特に力を入れるべきことについて

問18 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために、行政はどのようなことに特に力を入れるべきだと考えますか。次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	37.7% (36.9%)
2	行政・企業など関係者が協力した就労の促進	33.4% (33.0%)
3	障害のある子どもを支援する体制の充実	28.7% (28.8%)
4	障害のある方に対する県民の理解の促進	27.8% (28.4%)
5	ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実	25.5% (25.3%)
6	手当・年金などの所得保障	24.5% (24.3%)
7	福祉に関わる人材の養成・確保	24.0% (24.2%)
8	地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	23.1% (22.9%)
9	施設、交通機関や情報のバリアフリー	16.7% (17.3%)
10	保健・医療施策の推進	12.7% (12.4%)
11	障害者スポーツ・文化活動の振興	9.3% (9.8%)
12	障害のある方の権利擁護の推進	6.9% (6.8%)
13	防災対策の充実	5.2% (5.5%)
14	その他	0.8% (0.8%)
	(無回答)	3.7% (3.6%)

障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が特に力を入れるべきことについて、「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」(37.7%)が最も高く、次いで「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」(33.4%)、「障害のある子どもを支援する体制の充実」(28.7%)、「障害のある方に対する県民の理解の促進」(27.8%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり」(36.9%)が最も高く、次いで「行政・企業など関係者が協力した就労の促進」(33.0%)、「障害のある子どもを支援する体制の充実」(28.8%)、「障害のある方に対する県民の理解の促進」(28.4%)などとなっている。

図表 3-(9)-1 障害のある方が地域でいきいきと暮らすために行政が特に力を入れるべきこと

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 障害のある方がいつでも安心して相談できる仕組みづくり	37.7	650 人
(2) 行政・企業など関係者が協力した就労の促進	33.4	575 人
(3) 障害のある子どもを支援する体制の充実	28.7	494 人
(4) 障害のある方に対する県民の理解の促進	27.8	479 人
(5) ショートステイやホームヘルプなど在宅福祉サービスの充実	25.5	439 人
(6) 手当・年金などの所得保障	24.5	422 人
(7) 福祉に関わる人材の養成・確保	24.0	414 人
(8) 地域で生活するためのグループホーム整備など住まいの確保	23.1	398 人
(9) 施設、交通機関や情報のバリアフリー	16.7	288 人
(10) 保健・医療施策の推進	12.7	218 人
(11) 障害者スポーツ・文化活動の振興	9.3	161 人
(12) 障害のある方の権利擁護の推進	6.9	119 人
(13) 防災対策の充実	5.2	90 人
(14) その他	0.8	14 人
無回答	3.7	63 人

グラフ単位：(%)

4. 選挙啓発について

(1) 投票に行こうと思うかについて

問19 あなたは、次の国政選挙で、投票に行こうと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

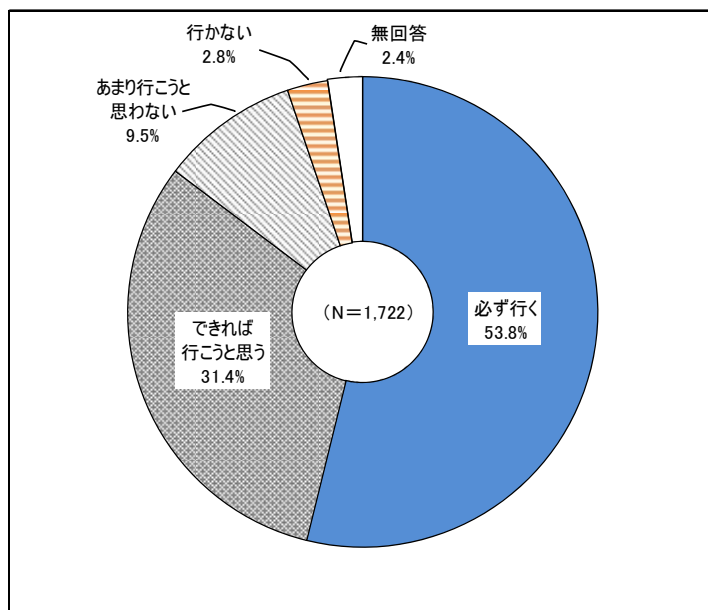
【回答者数=1,722】

1 必ず行く	53.8% (52.4%)
2 できれば行こうと思う	31.4% (31.8%)
3 あまり行こうと思わない	9.5% (10.4%)
4 行かない	2.8% (3.2%)
(無回答)	2.4% (2.3%)

投票に行こうと思うかについて、「必ず行く」(53.8%)が最も高く、次いで「できれば行こうと思う」(31.4%)、「あまり行こうと思わない」(9.5%)、「行かない」(2.8%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「必ず行く」(52.4%)が最も高く、次いで「できれば行こうと思う」(31.8%)、「あまり行こうと思わない」(10.4%)、「行かない」(3.2%)となっている。

図表 4-(1)-1 投票に行こうと思うか



(2) 投票に行く理由について

【問19で「1」または「2」と答えた方にお聞きします】

付問5 その理由は何ですか。あなたの考えに最も近いものを次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

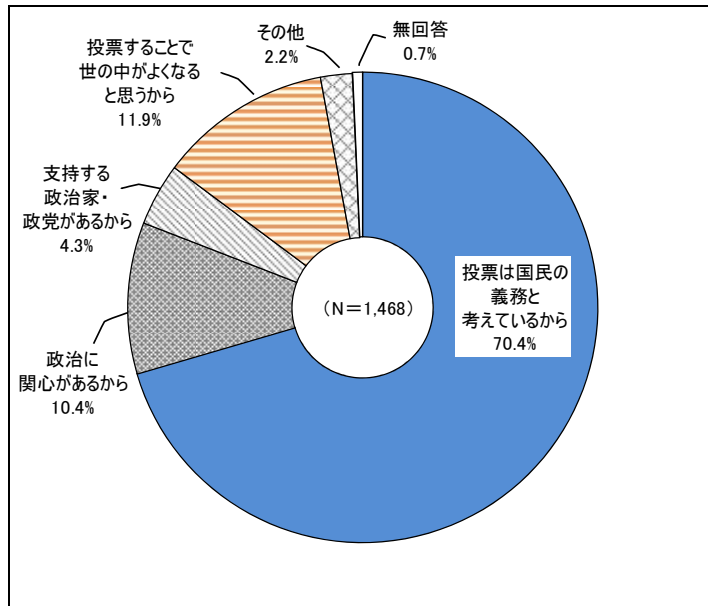
【回答者数=1,468 (1,449)】

1 投票は国民の義務と考えているから	70.4% (70.3%)
2 政治に関心があるから	10.4% (10.4%)
3 支持する政治家・政党があるから	4.3% (4.1%)
4 投票することで世の中がよくなると思うから	11.9% (12.0%)
5 その他	2.2% (2.5%)
(無回答)	0.7% (0.8%)

投票に行く理由について、「投票は国民の義務と考えているから」(70.4%)が最も高く、次いで「投票することで世の中がよくなると思うから」(11.9%)、「政治に関心があるから」(10.4%)、「支持する政治家・政党があるから」(4.3%)、「その他」(2.2%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「投票は国民の義務と考えているから」(70.3%)が最も高く、次いで「投票することで世の中がよくなると思うから」(12.0%)、「政治に関心があるから」(10.4%)、「支持する政治家・政党があるから」(4.1%)、「その他」(2.5%)となっている。

図表 4-(2)-1 投票に行く理由



(3) 投票に行かない理由について

【問19で「3」または「4」と答えた方にお聞きします】

付問6 その理由は何ですか。あなたの考えに最も近いものを次の中から1つだけ選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

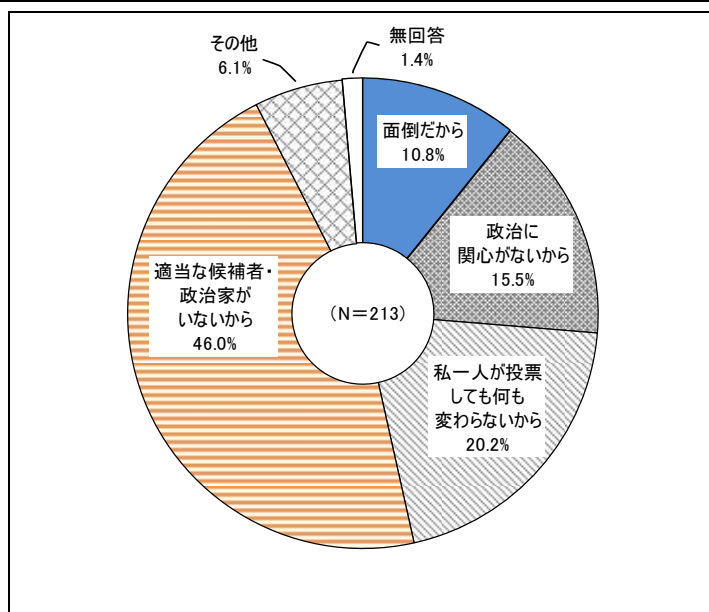
【回答者数=213 (233)】

1 面倒だから	10.8% (11.9%)
2 政治に関心がないから	15.5% (15.8%)
3 私一人が投票しても何も変わらないから	20.2% (20.4%)
4 適当な候補者・政治家がないから	46.0% (44.7%)
5 その他	6.1% (5.9%)
(無回答)	1.4% (1.4%)

投票に行かない理由について、「適当な候補者・政治家がないから」(46.0%)が最も高く、次いで「私一人が投票しても何も変わらないから」(20.2%)、「政治に関心がないから」(15.5%)、「面倒だから」(10.8%)、「その他」(6.1%)となっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「適当な候補者・政治家がないから」(44.7%)が最も高く、次いで「私一人が投票しても何も変わらないから」(20.4%)、「政治に関心がないから」(15.8%)、「面倒だから」(11.9%)、「その他」(5.9%)となっている。

図表 4-(3)-1 投票に行かない理由



(4) 県・市町選挙管理委員会が投票を呼びかける啓発活動の中で見聞きしたことがあるものについて

問20 選挙の際には、県・市町選挙管理委員会が投票を呼びかける啓発活動を行っていますが、その中であなたが見たり聞いたりしたことがあるものはありますか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1 県や市町の広報誌	60.7% (59.1%)
2 新聞広告	55.9% (54.3%)
3 テレビCM	53.9% (53.1%)
4 県や市町庁舎の立看板・懸垂幕	52.4% (51.1%)
5 啓発資材 (ポスター、チラシ、ポケットティッシュなど)	50.2% (50.3%)
6 広報車 (候補者の選挙カーとは異なります)・広報船による呼びかけ	45.2% (44.3%)
7 各項目に関するマスコミ報道	25.1% (24.6%)
8 ショッピングセンターなどでの街頭啓発イベント	18.3% (18.8%)
9 交通広告 (電車・駅・バス)	12.7% (13.1%)
10 県や市町のホームページ	9.5% (9.3%)
11 県選挙管理委員会のフェイスブック、ツイッター	3.8% (3.9%)
12 その他	0.9% (0.9%)
(無回答)	3.4% (3.2%)

県・市町選挙管理委員会が投票を呼びかける啓発活動の中で見聞きしたことがあるものについて、「県や市町の広報誌」(60.7%)が最も高く、次いで「新聞広告」(55.9%)、「テレビCM」(53.9%)、「県や市町庁舎の立看板・懸垂幕」(52.4%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「県や市町の広報誌」(59.1%)が最も高く、次いで「新聞広告」(54.3%)、「テレビCM」(53.1%)、「県や市町庁舎の立看板・懸垂幕」(51.1%)などとなっている。

図表 4-(4)-1 県・市町選挙管理委員会が投票を呼びかける啓発活動の中で見聞きしたことがあるもの

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 県や市町の広報誌	60.7	1,046 人
(2) 新聞広告	55.9	963 人
(3) テレビCM	53.9	929 人
(4) 県や市町村舎の立看板・懸垂幕	52.4	902 人
(5) 啓発資材(ポスター、チラシ、ポケットティッシュなど)	50.2	864 人
(6) 広報車(候補者の選挙カーとは異なります)・広報船による呼びかけ	45.2	779 人
(7) 各項目に関するマスコミ報道	25.1	432 人
(8) ショッピングセンターなどでの街頭啓発イベント	18.3	315 人
(9) 交通広告(電車・駅・バス)	12.7	218 人
(10) 県や市町のホームページ	9.5	163 人
(11) 県選挙管理委員会のフェイスブック、ツイッター	3.8	66 人
(12) その他	0.9	16 人
無回答	3.4	58 人

グラフ単位：(%)

(5) 次回以降の選挙において、どのような手法で投票の呼びかけを実施すべきだと思うかについて

問21 次回以降の選挙において、どのような手法で投票の呼びかけを実施すべきだと思いますか。

次の中から3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	テレビCM	52.7% (53.0%)
2	新聞広告	36.6% (35.6%)
3	県や市町の広報誌	35.8% (34.7%)
4	広報車（候補者の選挙カーとは異なります）・広報船による呼びかけ	31.2% (30.1%)
5	啓発資材（ポスター、チラシ、ポケットティッシュなど）	23.0% (23.4%)
6	ショッピングセンターなどでの街頭啓発イベント	22.5% (23.3%)
7	県や市町庁舎の立看板・懸垂幕	21.0% (20.3%)
8	交通広告（電車・駅・バス）	16.3% (17.1%)
9	県や市町のホームページ	9.4% (9.3%)
10	県選挙管理委員会のフェイスブック、ツイッター	8.2% (9.1%)
11	その他	3.1% (3.3%)
	(無回答)	3.8% (3.6%)

次回以降の選挙において、どのような手法で投票の呼びかけを実施すべきだと思うかについて、「テレビCM」(52.7%)が最も高く、次いで「新聞広告」(36.6%)、「県や市町の広報誌」(35.8%)、「広報車（候補者の選挙カーとは異なります）・広報船による呼びかけ」(31.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「テレビCM」(53.0%)が最も高く、次いで「新聞広告」(35.6%)、「県や市町の広報誌」(34.7%)、「広報車（候補者の選挙カーとは異なります）・広報船による呼びかけ」(30.1%)などとなっている。

図表 4-(5)-1 次回以降の選挙において、どのような手法で投票の呼びかけを実施すべきだと思うか

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) テレビCM	52.7	907 人
(2) 新聞広告	36.6	630 人
(3) 県や市町の広報誌	35.8	616 人
(4) 広報車(候補者の選挙カーとは異なります)・広報船による呼びかけ	31.2	537 人
(5) 啓発資材(ポスター、チラシ、ポケットティッシュなど)	23.0	396 人
(6) ショッピングセンターなどでの街頭啓発イベント	22.5	388 人
(7) 県や市町庁舎の立看板・懸垂幕	21.0	361 人
(8) 交通広告(電車・駅・バス)	16.3	281 人
(9) 県や市町のホームページ	9.4	162 人
(10) 県選挙管理委員会のフェイスブック、ツイッター	8.2	142 人
(11) その他	3.1	54 人
無回答	3.8	66 人

グラフ単位：(%)

(6) 投票率の向上を図るには選挙制度などを含め、どうすればよいと思うかについて

問22 今後、国民の選挙への関心を高め、投票率の向上を図るには、選挙制度などを含め、どうすればよいと思いますか。あなたの考えに近いものを3つまで選んでください。

※ () 内の割合はウェイトバックした値

【回答者数=1,722】※回答数の多い順に並び替え

1	学校教育で選挙に関する教育を充実させる	58.6% (58.5%)
2	行政機関が選挙の意義や重要性について、もっと積極的にPRする	45.9% (44.9%)
3	テレビなどで候補者の公開討論会ができるようにする	37.0% (36.2%)
4	インターネットを使って投票できるようにする	36.2% (38.2%)
5	民間企業や自治会などが主体となって投票参加の呼びかけを行う	21.8% (21.4%)
6	投票率が低いことも有権者の選択であり、仕方がない	20.9% (21.2%)
7	選挙に関するマスコミ報道を増やす	20.2% (19.6%)
8	投票を棄権した人に罰金を科す	7.4% (7.7%)
9	その他	5.6% (5.8%)
	(無回答)	3.1% (2.9%)

投票率の向上を図るには選挙制度などを含め、どうすればよいと思うかについて、「学校教育で選挙に関する教育を充実させる」(58.6%)が最も高く、次いで「行政機関が選挙の意義や重要性について、もっと積極的にPRする」(45.9%)、「テレビなどで候補者の公開討論会ができるようにする」(37.0%)、「インターネットを使って投票できるようにする」(36.2%)などとなっている。

ウェイトバック集計した値をみると、「学校教育で選挙に関する教育を充実させる」(58.5%)が最も高く、次いで「行政機関が選挙の意義や重要性について、もっと積極的にPRする」(44.9%)、「インターネットを使って投票できるようにする」(38.2%)、「テレビなどで候補者の公開討論会ができるようにする」(36.2%)などとなっている。

図表 4-(6)-1 投票率の向上を図るには選挙制度などを含め、どうすればよいと思うか

		回答数
全体	100.0	1,722 人
(1) 学校教育で選挙に関する教育を充実させる	58.6	1,009 人
(2) 行政機関が選挙の意義や重要性について、もっと積極的にPRする	45.9	791 人
(3) テレビなどで候補者の公開討論会ができるようにする	37.0	638 人
(4) インターネットを使って投票できるようにする	36.2	624 人
(5) 民間企業や自治会などが主体となって投票参加の呼びかけを行う	21.8	376 人
(6) 投票率が低いことも有権者の選択であり、仕方がない	20.9	360 人
(7) 選挙に関するマスコミ報道を増やす	20.2	347 人
(8) 投票を棄権した人に罰金を科す	7.4	128 人
(9) その他	5.6	97 人
無回答	3.1	53 人

グラフ単位：(%)

5. 県政の重要度と満足度について

県では、平成28年度からの新たな香川づくりの指針として、「新・せとうち田園都市創造計画」※を策定し、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、さまざまな施策に取り組んでいます。

この計画を着実に推進し、県民の皆さまのニーズ(要望)に対応した県政を進めるためには、皆さまが「県行政に対して何を求めているのか」、「現在の状況にどのくらい満足しているのか」を知り、それを県政に反映させていくことが重要となります。

そこで、この計画で展開することとしている24の分野を対象に、皆さまが考える重要度と満足度についてお伺いしますので、以下の質問にお答えください。

「重要度」については、今の生活やこれからの生活を送っていくうえでどのくらい重要かを、また、「満足度」については、現状にどのくらい満足しているかを、それぞれ5段階で評価してください。

※「新・せとうち田園都市創造計画」

本県の進むべき基本的方向とそれを実現するための方策を明らかにした県政運営の基本指針で、計画期間は平成28年度から平成32年度の5年間です。

この計画では、「せとうち田園都市の新たな創造」を基本目標に掲げ、「成長する香川」、「信頼・安心の香川」、「笑顔で暮らせる香川」の3つの基本方針のもと、人口減少の克服や地域活力の向上につながる効果的な施策に重点的に取り組み、人口の社会増を伴う、魅力ある瀬戸内香川の生活圏域づくりをめざしています。

(1)成長する香川（重要度）

問23 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。
 「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜重要度＞を、
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

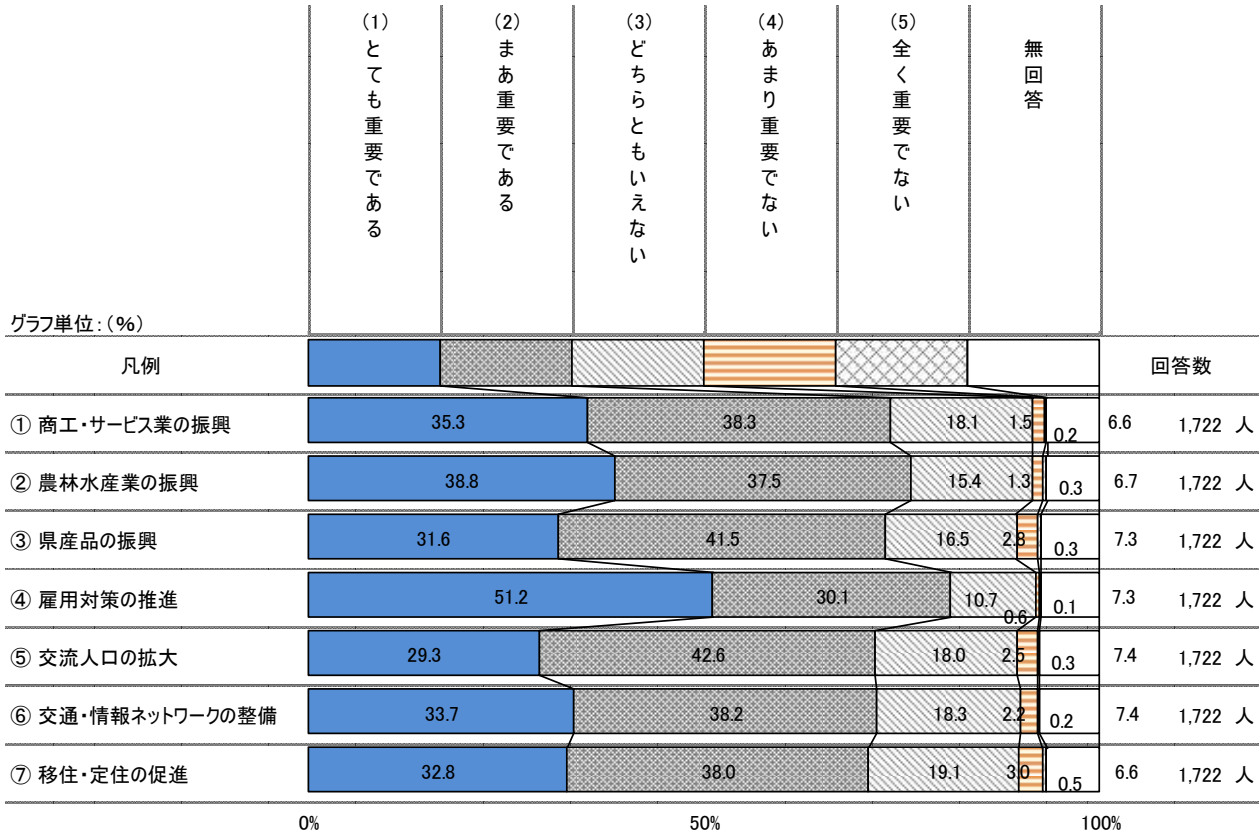
【回答者数=1,722】

分 野	重要度					
	① とても 重要 である	② まあ 重要 である	③ どちら とも いえ ない	④ あま り重 要で ない	⑤ 全 く重 要で ない	無 回 答
1 商工・サービス業の振興	35.3 (35.2)	38.3 (38.5)	18.1 (18.2)	1.5 (1.6)	0.2 (0.2)	6.6 (6.4)
2 農林水産業の振興	38.8 (38.3)	37.5 (37.7)	15.4 (15.9)	1.3 (1.3)	0.3 (0.3)	6.7 (6.5)
3 県産品の振興	31.6 (31.6)	41.5 (41.4)	16.5 (16.6)	2.8 (2.9)	0.3 (0.4)	7.3 (7.0)
4 雇用対策の推進	51.2 (51.9)	30.1 (29.5)	10.7 (10.9)	0.6 (0.6)	0.1 (0.1)	7.3 (7.0)
5 交流人口の拡大	29.3 (29.2)	42.6 (42.8)	18.0 (18.2)	2.5 (2.5)	0.3 (0.3)	7.4 (7.1)
6 交通・情報ネットワークの整備	33.7 (34.0)	38.2 (37.6)	18.3 (18.7)	2.2 (2.4)	0.2 (0.2)	7.4 (7.1)
7 移住・定住の促進	32.8 (32.5)	38.0 (38.4)	19.1 (19.1)	3.0 (3.2)	0.5 (0.5)	6.6 (6.4)

「成長する香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、すべての分野において7割を超えており、「雇用対策の推進」(81.3%)が最も高く、次いで「農林水産業の振興」(76.3%)となっている。

ウェイトバックした値をみると、【重要である】の割合は、すべての分野において7割を超えており、「雇用対策の推進」(81.4%)が最も高く、次いで「農林水産業の振興」(76.0%)となっている。

図表 5-(1) 成長する香川（重要度）



(2)成長する香川（満足度）

問23 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「成長する香川」についておたずねします。
 「成長する香川」の実現に向けて展開している1～7の分野について、あなたの＜満足度＞を、
 それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

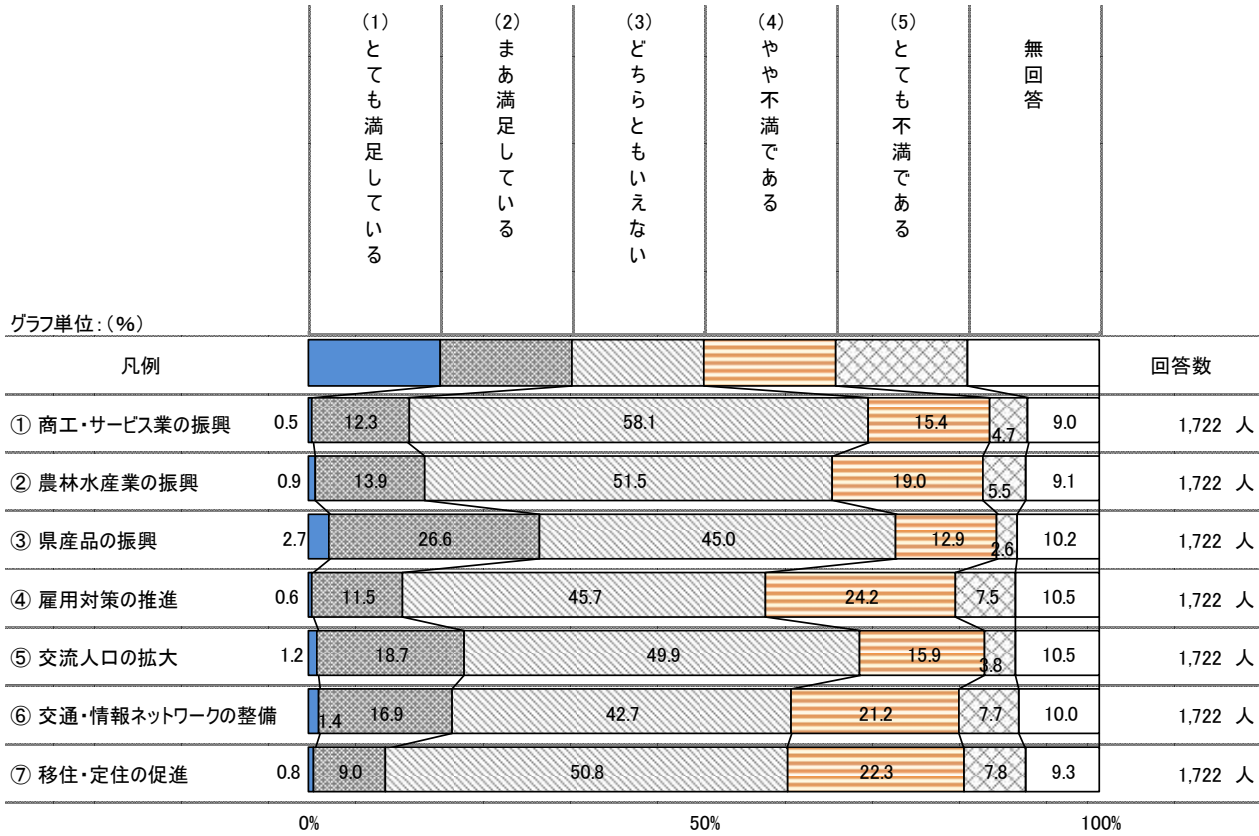
【回答者数=1,722】

分 野	満足度					
	① とても満足している	② まあ満足している	③ どちらともいえない	④ やや不満である	⑤ とても不満である	無回答
1 商工・サービス業の振興	0.5 (0.5)	12.3 (12.5)	58.1 (58.2)	15.4 (15.3)	4.7 (4.8)	9.0 (8.7)
2 農林水産業の振興	0.9 (0.9)	13.9 (14.3)	51.5 (51.9)	19.0 (18.7)	5.5 (5.4)	9.1 (8.8)
3 県産品の振興	2.7 (2.9)	26.6 (27.7)	45.0 (44.4)	12.9 (12.6)	2.6 (2.6)	10.2 (9.8)
4 雇用対策の推進	0.6 (0.7)	11.5 (11.7)	45.7 (45.7)	24.2 (24.2)	7.5 (7.6)	10.5 (10.0)
5 交流人口の拡大	1.2 (1.3)	18.7 (19.2)	49.9 (49.8)	15.9 (15.7)	3.8 (3.8)	10.5 (10.1)
6 交通・情報ネットワークの整備	1.4 (1.4)	16.9 (17.1)	42.7 (42.9)	21.2 (21.2)	7.7 (7.8)	10.0 (9.6)
7 移住・定住の促進	0.8 (0.9)	9.0 (9.2)	50.8 (51.2)	22.3 (22.0)	7.8 (7.7)	9.3 (9.0)

「成長する香川」については、「県産品の振興」と「交流人口の拡大」において、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、その他の分野においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバックした値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(2) 成長する香川（満足度）



(3)信頼・安心の香川（重要度）

問24 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの＜重要度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

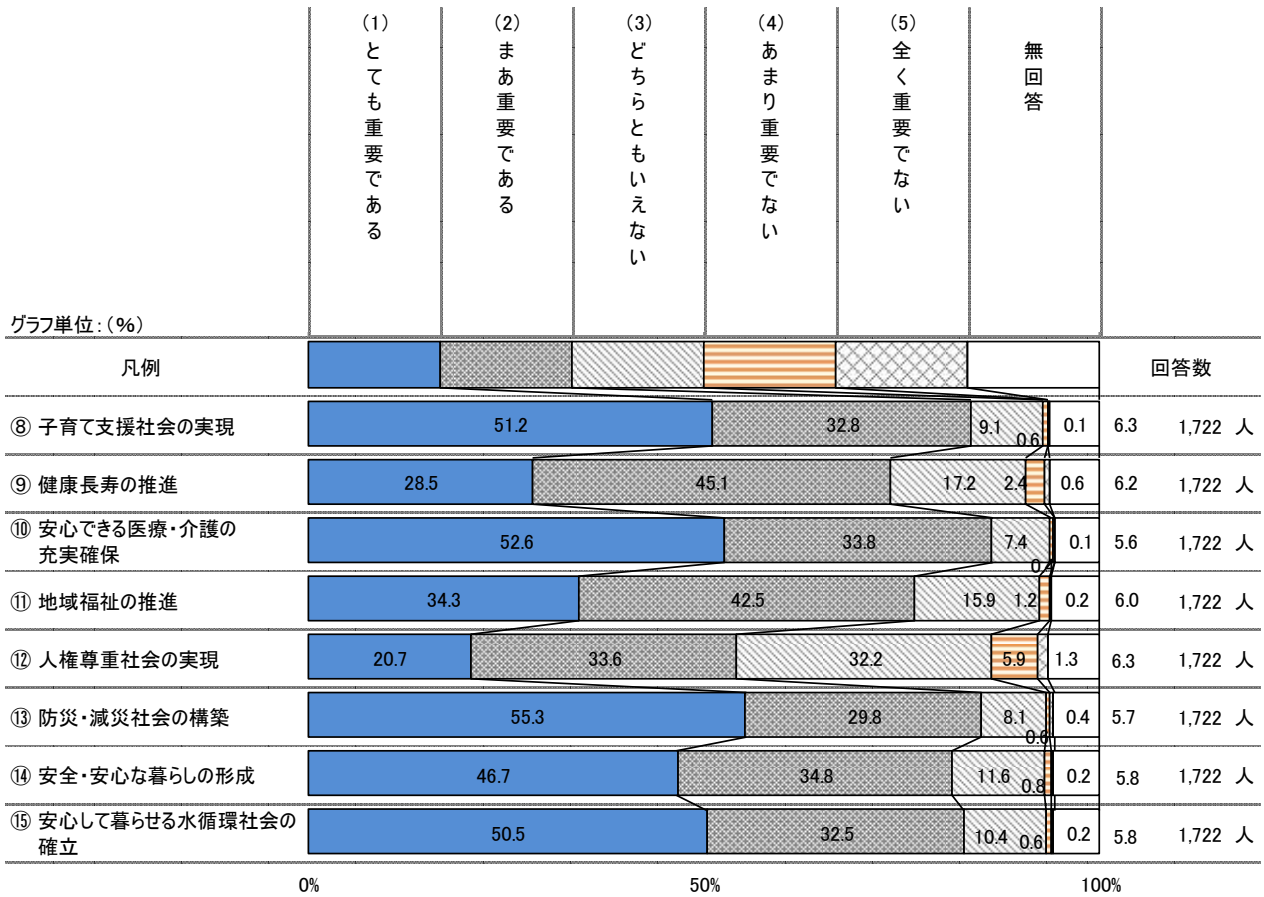
【回答者数=1,722】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
8 子育て支援社会の実現	51.2 (52.4)	32.8 (32.2)	9.1 (8.8)	0.6 (0.5)	0.1 (0.1)	6.3 (6.0)
9 健康長寿の推進	28.5 (28.6)	45.1 (44.9)	17.2 (17.3)	2.4 (2.6)	0.6 (0.7)	6.2 (5.9)
10 安心できる医療・介護の充実確保	52.6 (53.0)	33.8 (33.4)	7.4 (7.6)	0.4 (0.4)	0.1 (0.1)	5.6 (5.4)
11 地域福祉の推進	34.3 (34.3)	42.5 (42.2)	15.9 (16.3)	1.2 (1.3)	0.2 (0.2)	6.0 (5.8)
12 人権尊重社会の実現	20.7 (21.2)	33.6 (33.6)	32.2 (31.8)	5.9 (6.0)	1.3 (1.3)	6.3 (6.1)
13 防災・減災社会の構築	55.3 (56.1)	29.8 (29.4)	8.1 (8.0)	0.6 (0.6)	0.4 (0.4)	5.7 (5.5)
14 安全・安心な暮らしの形成	46.7 (47.4)	34.8 (34.6)	11.6 (11.4)	0.8 (0.8)	0.2 (0.2)	5.8 (5.6)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	50.5 (50.6)	32.5 (32.3)	10.4 (10.6)	0.6 (0.6)	0.2 (0.2)	5.8 (5.6)

「信頼・安心の香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」（86.4%）が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」（85.1%）となっている。

ウェイトバックした値をみると、【重要である】の割合は、「安心できる医療・介護の充実確保」（86.4%）が最も高く、次いで「防災・減災社会の構築」（85.5%）となっている。

図表 5-(3) 信頼・安心の香川（重要度）



(4)信頼・安心の香川（満足度）

問24 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「信頼・安心の香川」についておたずねします。「信頼・安心の香川」の実現に向けて展開している8～15の分野について、あなたの〈満足度〉を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

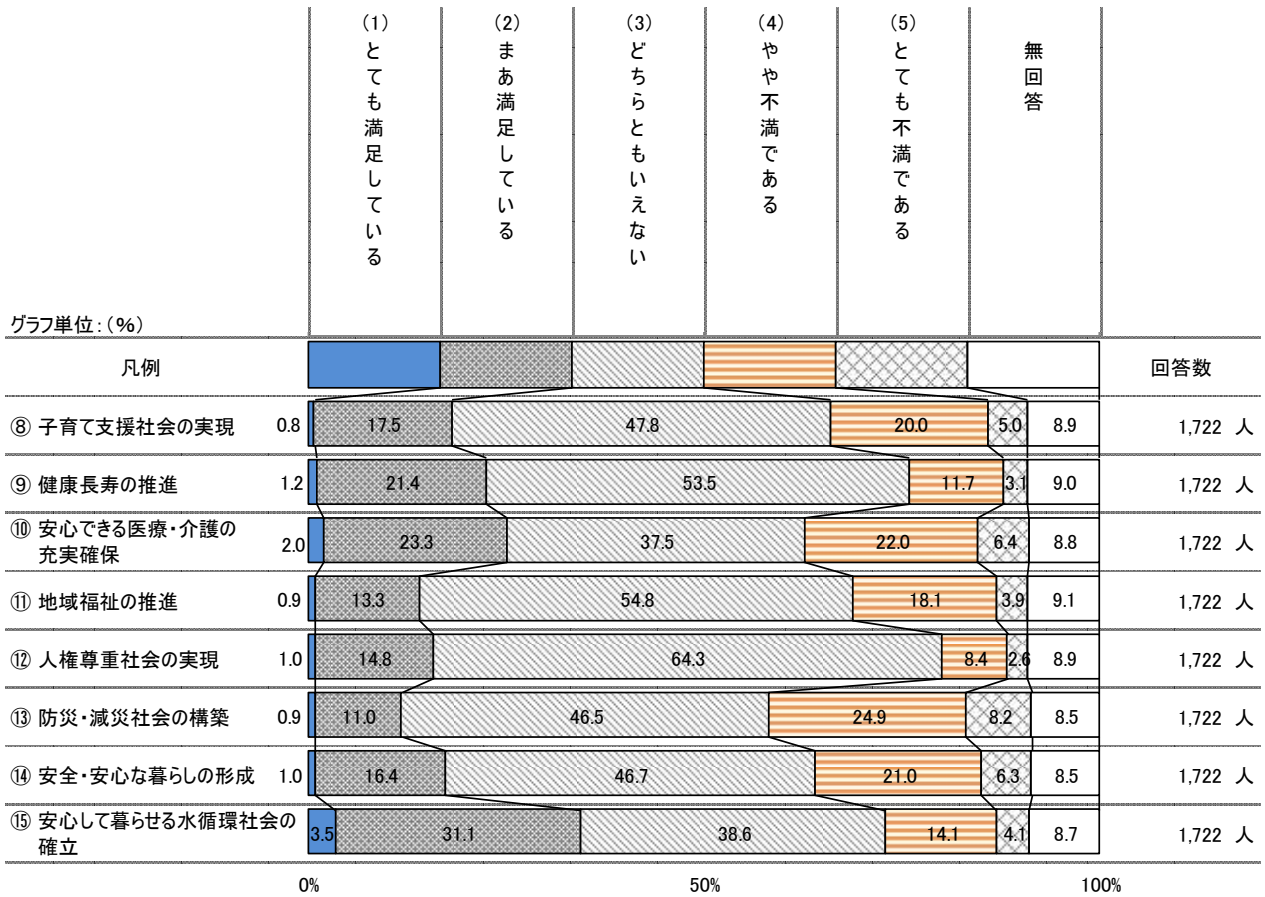
【回答者数=1,722】

分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
8 子育て支援社会の実現	0.8 (0.9)	17.5 (17.4)	47.8 (47.7)	20.0 (20.3)	5.0 (5.2)	8.9 (8.5)
9 健康長寿の推進	1.2 (1.3)	21.4 (21.4)	53.5 (54.0)	11.7 (11.5)	3.1 (3.1)	9.0 (8.6)
10 安心できる医療・介護の充実確保	2.0 (2.1)	23.3 (23.2)	37.5 (38.0)	22.0 (22.0)	6.4 (6.3)	8.8 (8.4)
11 地域福祉の推進	0.9 (0.9)	13.3 (13.3)	54.8 (55.5)	18.1 (17.6)	3.9 (3.9)	9.1 (8.7)
12 人権尊重社会の実現	1.0 (1.1)	14.8 (14.9)	64.3 (64.3)	8.4 (8.5)	2.6 (2.6)	8.9 (8.5)
13 防災・減災社会の構築	0.9 (1.0)	11.0 (11.1)	46.5 (46.2)	24.9 (25.1)	8.2 (8.4)	8.5 (8.2)
14 安全・安心な暮らしの形成	1.0 (1.1)	16.4 (16.5)	46.7 (46.5)	21.0 (21.3)	6.3 (6.4)	8.5 (8.2)
15 安心して暮らせる水循環社会の確立	3.5 (3.5)	31.1 (30.9)	38.6 (39.1)	14.1 (14.1)	4.1 (4.1)	8.7 (8.3)

「信頼・安心の香川」については、「健康長寿の推進」、「人権尊重社会の実現」、「安心して暮らせる水循環社会の確立」において、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合が、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合を上回っており、その他の分野においては【不満である】の割合が【満足している】の割合を上回っている。

ウェイトバックした値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(4) 信頼・安心の香川（満足度）



(5)笑顔で暮らせる香川（重要度）

問25 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの<重要度>を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

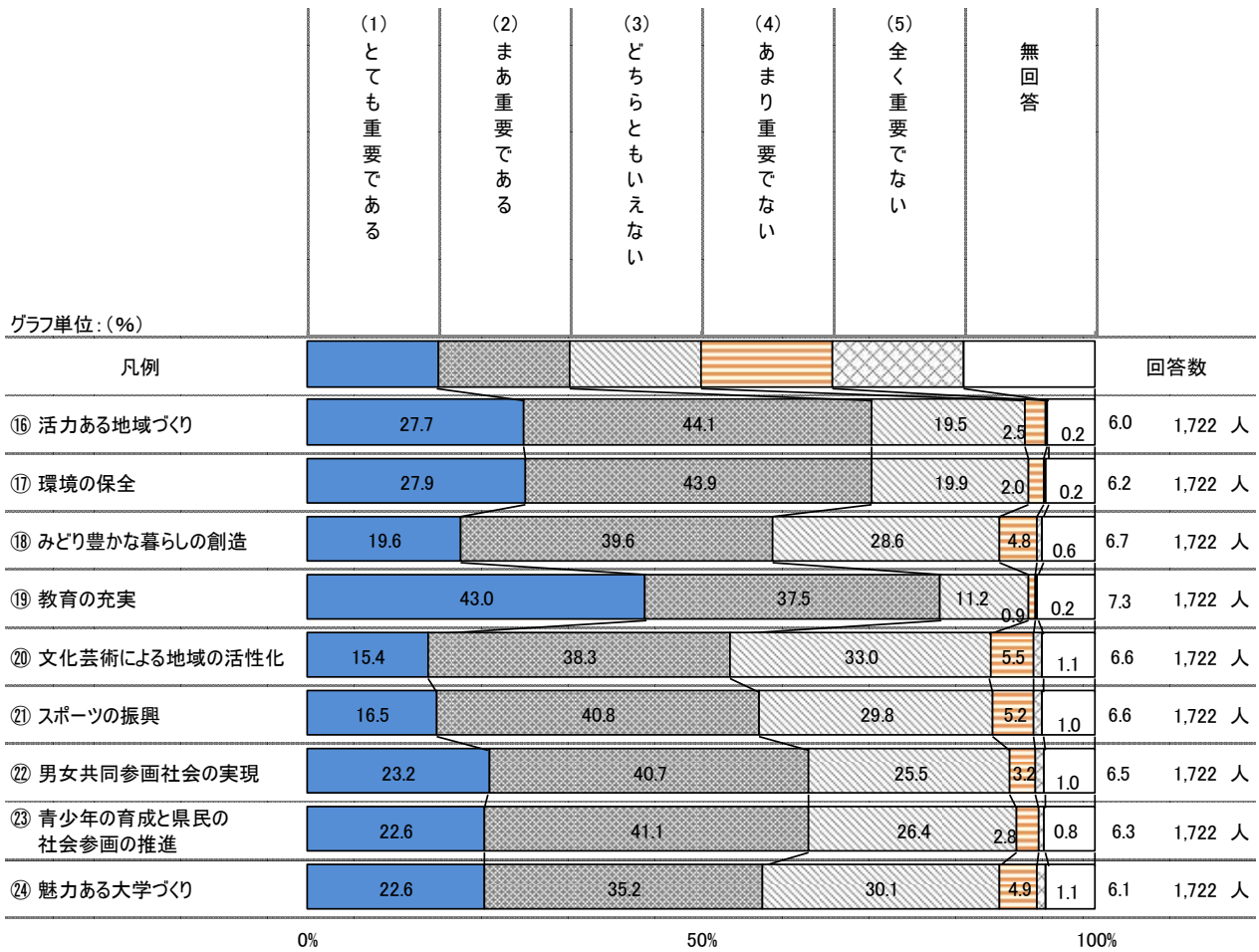
【回答者数=1,722】

分 野	重要度					
	①とても重要である	②まあ重要である	③どちらともいえない	④あまり重要でない	⑤全く重要でない	無回答
16 活力ある地域づくり	27.7 (27.9)	44.1 (43.9)	19.5 (19.8)	2.5 (2.5)	0.2 (0.2)	6.0 (5.8)
17 環境の保全	27.9 (27.8)	43.9 (43.8)	19.9 (20.5)	2.0 (2.0)	0.2 (0.2)	6.2 (5.9)
18 みどり豊かな暮らしの創造	19.6 (19.6)	39.6 (39.4)	28.6 (29.1)	4.8 (4.9)	0.6 (0.6)	6.7 (6.4)
19 教育の充実	43.0 (43.6)	37.5 (36.9)	11.2 (11.4)	0.9 (1.0)	0.2 (0.2)	7.3 (6.9)
20 文化芸術による地域の活性化	15.4 (15.6)	38.3 (38.1)	33.0 (33.0)	5.5 (5.7)	1.1 (1.2)	6.6 (6.3)
21 スポーツの振興	16.5 (17.0)	40.8 (40.3)	29.8 (29.9)	5.2 (5.4)	1.0 (1.1)	6.6 (6.3)
22 男女共同参画社会の実現	23.2 (24.0)	40.7 (40.3)	25.5 (25.2)	3.2 (3.2)	1.0 (1.0)	6.5 (6.2)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	22.6 (22.5)	41.1 (40.6)	26.4 (27.0)	2.8 (2.9)	0.8 (0.9)	6.3 (6.0)
24 魅力ある大学づくり	22.6 (22.8)	35.2 (34.8)	30.1 (30.3)	4.9 (5.1)	1.1 (1.1)	6.1 (5.8)

「笑顔で暮らせる香川」については、「とても重要である」と「まあ重要である」を合わせた【重要である】の割合は、「教育の充実」（80.5%）が最も高く、次いで「活力ある地域づくり」と「環境の保全」（ともに71.8%）となっている。

ウェイトバックした値をみると、【重要である】の割合は、「教育の充実」（80.5%）が最も高く、次いで「活力ある地域づくり」（71.8%）となっている。

図表 5-(5) 笑顔で暮らせる香川（重要度）



(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）

問25 「新・せとうち田園都市創造計画」の基本方針「笑顔で暮らせる香川」についておたずねします。「笑顔で暮らせる香川」の実現に向けて展開している16～24の分野について、あなたの＜満足度＞を、それぞれ1～5のうちあてはまる番号を1つだけ選んで、○をつけてください。

【回答者数=1,722】

分 野	満足度					
	①とても満足している	②まあ満足している	③どちらともいえない	④やや不満である	⑤とても不満である	無回答
16 活力ある地域づくり	0.5 (0.6)	12.8 (13.0)	57.3 (57.5)	16.3 (16.5)	3.7 (3.6)	9.3 (8.9)
17 環境の保全	0.9 (0.9)	16.7 (17.1)	57.0 (57.4)	13.2 (12.9)	2.8 (2.8)	9.3 (8.9)
18 みどり豊かな暮らしの創造	1.8 (1.8)	22.0 (22.3)	56.0 (56.2)	8.5 (8.5)	2.1 (2.1)	9.6 (9.1)
19 教育の充実	1.7 (1.8)	21.3 (21.0)	45.5 (45.9)	17.4 (17.5)	4.1 (4.1)	10.2 (9.7)
20 文化芸術による地域の活性化	1.6 (1.8)	21.4 (21.6)	57.8 (58.0)	7.5 (7.3)	2.0 (2.0)	9.6 (9.2)
21 スポーツの振興	1.2 (1.3)	17.1 (17.1)	58.8 (59.0)	10.5 (10.6)	2.8 (2.9)	9.6 (9.2)
22 男女共同参画社会の実現	0.7 (0.8)	12.9 (13.1)	61.6 (61.5)	12.2 (12.4)	3.4 (3.5)	9.2 (8.8)
23 青少年の育成と県民の社会参画の推進	0.9 (1.0)	13.0 (13.0)	63.6 (64.2)	10.6 (10.4)	2.5 (2.5)	9.3 (8.9)
24 魅力ある大学づくり	0.6 (0.6)	10.0 (10.1)	61.6 (61.7)	13.2 (13.4)	5.2 (5.3)	9.2 (8.8)

「笑顔で暮らせる香川」については、「活力ある地域づくり」、「男女共同参画社会の実現」、「魅力ある大学づくり」において、「やや不満である」と「とても不満である」を合わせた【不満である】の割合は、「とても満足している」と「まあ満足している」を合わせた【満足している】の割合を上回っており、その他の分野においては【満足している】の割合が【不満である】の割合を上回っている。

ウェイトバックした値においても、同じ結果となっている。

図表 5-(6) 笑顔で暮らせる香川（満足度）

